

**【表紙】**

<b>【提出書類】</b>	有価証券届出書
<b>【提出先】</b>	関東財務局長殿
<b>【提出日】</b>	平成27年9月24日
<b>【発行者名】</b>	J P モルガン・アセット・マネジメント株式会社
<b>【代表者の役職氏名】</b>	代表取締役社長 大越 昇一
<b>【本店の所在の場所】</b>	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビルディング
<b>【事務連絡者氏名】</b>	内藤 敏信 (連絡場所) 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビルディング
<b>【電話番号】</b>	03 - 6736 - 2000
<b>【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券に係るファンドの名称】</b>	J P M グローバルマイスター
<b>【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券の金額】</b>	2兆円を上限とします。
<b>【縦覧に供する場所】</b>	該当事項はありません。

## 第一部【証券情報】

### （１）【ファンドの名称】

JPMグローバルマイスター

（以下「当ファンド」といいます。）

### （２）【内国投資信託受益証券の形態等】

当ファンドは、JPMオルガン・アセット・マネジメント株式会社（以下「委託会社」といいます。）を委託会社とし、三菱UFJ信託銀行株式会社（以下「受託会社」といいます。）を受託会社とする契約型の追加型株式投資信託です。

当ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）に定める振替投資信託受益権の形態で発行されます。

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後記の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。

委託会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、本書の各記載項目の表題部において「受益証券」と表記されている場合がありますが、上述のとおり当ファンドは原則として受益証券を発行しませんので、適宜「受益権」とお読み替えてください。

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付はありません。また、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

なお、当初元本は1口当たり1円です。

### （３）【発行（売出）価額の総額】

2兆円を上限とします。

なお、前記金額には、後記「（５）申込手数料」は含まれません。

### （４）【発行（売出）価格】

取得申込日の翌営業日の基準価額とします。

「基準価額」とは、純資産総額をその時の受益権総口数で除した1口当たりの価額をいいます。なお、便宜上1万口当たりに換算した価額で表示することがあります。

基準価額（1万口当たり）は、販売会社に問い合わせることにより知ることができます。また、基準価額（1万口当たり）は、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

販売会社に関しては、以下の照会先までお問い合わせください。

照会先：

JPMオルガン・アセット・マネジメント株式会社

TEL：03-6736-2350（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

HPアドレス：<http://www.jpmorganasset.co.jp/>

**( 5 ) 【申込手数料】**

発行価格に販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。ただし、有価証券届出書提出日現在、販売会社における手数料率<sup>\*</sup>は、3.78%（税抜3.50%）が上限となっています。

<sup>\*</sup> 当該手数料率は、消費税および地方消費税相当額（以下「消費税等」または「税」といいます。）を含みます。また、本書において記載されている報酬率、費用等も同様です。

手数料率は、販売会社に問い合わせることにより知ることができます。

販売会社に関しては、前記「( 4 ) 発行（売出）価格」の照会先までお問い合わせください。

自動けいぞく投資契約<sup>\*</sup>に基づいて収益分配金を再投資する場合は、無手数料とします。

<sup>\*</sup> 当該契約については、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。なお、「自動けいぞく投資」とは、収益の分配がなされた場合、収益分配金より税金を差し引いた後、自動的に当ファンドに再投資するものをいいます。

**( 6 ) 【申込単位】**

収益分配金の受取方法により、2つのコースがあります。

- ・「一般コース」・・・収益の分配時に収益分配金をお受け取りになれます。
- ・「自動けいぞく投資コース」・・・収益分配金が税引き後、再投資されます。

「自動けいぞく投資コース」を選択する場合、取得申込みを行う投資者は、販売会社との間で自動けいぞく投資契約を締結します。

いずれのコース共、申込単位は、販売会社が定めるものとします。

ただし、「自動けいぞく投資コース」において収益分配金を再投資する場合は、1円以上1円単位とします。

申込コースは、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

販売会社に関しては、前記「( 4 ) 発行（売出）価格」の照会先までお問い合わせください。

**( 7 ) 【申込期間】**

平成27年9月25日から平成28年9月26日までとします。

申込期間は、前記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新される予定です。

**( 8 ) 【申込取扱場所】**

申込期間中、販売会社において申込みを取扱います。

販売会社に関しては、前記「( 4 ) 発行（売出）価格」の照会先までお問い合わせください。

販売会社により全ての支店・営業所等で取扱いをしていない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

**( 9 ) 【払込期日】**

投資者は、申込みの販売会社が定める日までに取得申込代金<sup>\*</sup>を当該販売会社に支払うものとします。取得申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を經由して、受託会社の指定する当ファンド口座に払い込まれます。

<sup>\*</sup> 「取得申込代金」とは、申込金（発行価格×取得申込口数）に、申込手数料（税込）を加算した金額をいいます。

**( 10 ) 【払込取扱場所】**

投資者は、申込みの販売会社に取得申込代金を支払うものとします。

販売会社に関しては、前記「( 4 ) 発行（売出）価格」の照会先までお問い合わせください。

( 1 1 ) 【振替機関に関する事項】

当ファンドの振替機関は、株式会社 証券保管振替機構です。

( 1 2 ) 【その他】

申込証拠金はありません。申込金には利息はつきません。

日本以外の地域における受益権の発行はありません。

クーリングオフ制度（金融商品取引法第37条の6）の適用はありません。

振替受益権について

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、前記「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取扱われるものとします。

当ファンドの収益分配金、償還金および換金代金は、社振法および前記「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

###### (イ) ファンドの目的

当ファンドは、投資先ファンド<sup>\*1</sup>の有価証券を主要投資対象として運用を行い、信託財産の中長期的な成長をはかることを目的とします。

\*1 「投資先ファンド」とは、外国投資法人「J Pモルガン・ファンズ・グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンド<sup>\*2</sup>」および証券投資信託「GIMジャパン・マネープール・ファンドF（適格機関投資家専用）」をいいます。なお、「投資先ファンド」は、その有価証券を表すこともあります。また、投資先ファンドを以下の略称で記載する場合があります。投資先ファンドの詳細については、後記「(二)ファンドの特色 投資先ファンドの特徴」をご参照ください。

投資先ファンド名称	略称
外国投資法人「J Pモルガン・ファンズ・グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンド」	グローバル株式ファンド
証券投資信託「GIMジャパン・マネープール・ファンドF（適格機関投資家専用）」	マネープール・ファンド

\*2 投資先ファンド名称中の「アンコンストレインド（unconstrained）」は、「制約のない」という意味です。

###### (ロ) 信託金の限度額

委託会社は、受託会社と合意のうえ、金1兆円を限度として信託金を追加することができます。

###### (ハ) 基本的性格

一般社団法人投資信託協会の商品分類に関する指針に基づく、当ファンドの商品分類および属性区分は以下のとおりです。

商品分類<sup>\*1</sup> - 追加型投信 / 内外 / 株式

属性区分<sup>\*2</sup> - 投資対象資産：その他資産（投資信託証券（株式 一般））<sup>\*3</sup>

\*3 投資先ファンドへの投資を通じて、主に株式に実質的な投資を行いますので、投資対象資産は、その他資産（投資信託証券（株式 一般））と記載しています。投資先ファンドの詳細および投資対象資産の詳細については、後記「(二)ファンドの特色 投資先ファンドの特徴」をご参照ください。

決算頻度：年1回

投資対象地域：グローバル（日本を含む）

投資形態：ファンド・オブ・ファンズ

為替ヘッジ<sup>\*4</sup>：なし

\*4 属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

\*1 商品分類の定義（一般社団法人投資信託協会 - 商品分類に関する指針）

追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンド。
内外	目論見書または信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるもの。
株式	目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるもの。

## \* 2 属性区分の定義（一般社団法人投資信託協会 - 商品分類に関する指針）

投資対象資産	その他資産（投資信託証券（株式 一般））： 外国投資証券への投資を通じて、主として株式に投資するもののうち、大型株属性 <sup>*</sup> 、 中小型株属性 <sup>*</sup> のいずれにもあてはまらない全てのもの。
決算頻度	年1回： 目論見書または信託約款において、年1回決算する旨の記載があるもの。
投資対象地域	グローバル（日本を含む）： 目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が日本を含む世界の資産 を源泉とする旨の記載があるもの。
投資形態	ファンド・オブ・ファンズ： 一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するも の。
為替ヘッジ	なし： 目論見書または信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまた は為替のヘッジを行う旨の記載がないもの。

\* 「大型株属性」...目論見書または信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるもの。

「中小型株属性」...目論見書または信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるもの。

（注）前記の属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会の「商品分類に関する指針」を参考に委託  
会社が作成したものが含まれます。

（参考）一般社団法人投資信託協会が規定する商品分類および属性区分の一覧

## 商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 （収益の源泉）
単位型	国内	株式
		債券
追加型	海外	不動産投信
		その他資産 （ ）
	内外	資産複合

（注）当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

## 属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ			
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル (日本を含む)	ファミリーファンド	あり ( )			
	年2回	日本					
年4回	北米						
年6回 (隔月)	欧州						
年12回 (毎月)	アジア						
日々	オセアニア						
不動産投信	その他 ( )				中南米	ファンド・オブ・ファンズ	なし
その他資産 (投資信託証券 (株式 一般))					アフリカ		
資産複合 ( ) 資産配分固定型 資産配分変更型					中近東 (中東)		
					エマージング		

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

当ファンドを含むすべての商品分類、属性区分の定義については、  
一般社団法人投資信託協会のホームページをご覧ください。  
HPアドレス：<http://www.toushin.or.jp/>

## (二) ファンドの特色

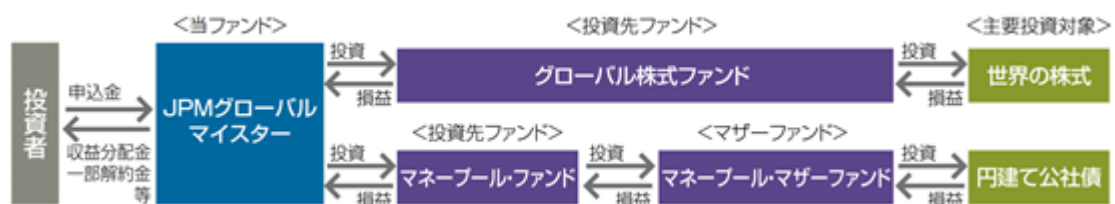
投資先ファンドを通じて、主として、世界の株式の中から、業種や時価総額にこだわらず、成長性があり、かつ株価が割安と判断される銘柄を中心に選定して投資します。

世界の株式に投資するグローバル株式ファンドの組入比率を高位に保つとともに、円建ての公社債に投資するマネープール・ファンドにも投資します。

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式<sup>\*</sup>により運用します。

<sup>\*</sup> 当ファンドのファンド・オブ・ファンズ方式では、当ファンドの資金を投資先ファンドに投資し、投資先ファンドが実際に有価証券に投資すること、または投資先ファンドの資金をさらにマザーファンドに投資して、マザーファンドが実際に有価証券に投資することにより、その実質的な運用を行います。

その仕組みは以下のとおりです。



(注) <投資先ファンド> および <マザーファンド> の正式名称を含む詳細については、後記「投資先ファンドの特徴」をご参照ください。

為替ヘッジは行いません。

投資先ファンドを通じて外貨建ての株式等に投資しますが、当ファンドは、為替ヘッジを行わないため、当該通貨と円との為替変動による影響を受けます。

為替変動は、外国通貨が円に対して上昇する（円安となる）場合に投資成果にプラスとなり、一方で外国通貨が円に対して下落する（円高となる）場合に投資成果にマイナスとなります。

J．P．モルガン・アセット・マネジメント<sup>\*</sup>のグローバルなネットワークを活用します。

<sup>\*</sup> J．P．モルガン・アセット・マネジメントは、J P モルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

## 投資先ファンドの特徴

### グローバル株式ファンド

名称	J P モルガン・ファンズ - グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンド (JPMorgan Funds - Global Unconstrained Equity Fund)
その有価証券 (外国投資証券)	J P M グローバル・アンコンストレインド・エクイティ (I クラス) (JPM Global Unconstrained Equity I) (円建て)
ファンドの形態	ルクセンブルク籍・外国投資法人
目的	世界の株式に積極的に投資し、資産の長期的な成長を目指します。
主要投資対象	世界の株式
主な運用方針	世界の株式を中心に投資し、投資対象とする株式の業種や時価総額には制限を設けません。時価総額の小さい株式へ投資する場合があります。また、ある業種や市場に集中した投資をすることがあります。
ベンチマーク <sup>* 1</sup>	MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス (税引後配当込み) <sup>*</sup> <sup>*</sup> MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックスは、MSCI Inc. が発表しています。同インデックスに関する情報の確実性および完結性をMSCI Inc. は何ら保証するものではありません。著作権はMSCI Inc. に帰属しています。
運用会社	J．P．モルガン・インベストメント・マネージメント・インク <sup>* 2</sup> (米国法人) J P モルガン・アセット・マネジメント (UK) リミテッド <sup>* 2</sup> (英国法人) (両社が共同で運用します。)

(注) 当ファンドで投資するグローバル株式ファンドは円建てのため、当ファンドにおいて運用成果を測る際に参考とする指数は、MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス (税引後配当込み、円ベース) とします。当該指数は、MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス (税引後配当込み) を委託会社にて円ベースに換算したものです。



## マネープール・ファンド

名称	G I Mジャパン・マネープール・ファンドF（適格機関投資家専用）
ファンドの形態	国内籍・証券投資信託
目的	円建ての公社債を実質的な主要投資対象とし、信託財産の安定した収益の確保を目指して安定運用を行います。
主要投資対象	G I Mマネープール・マザーファンド（適格機関投資家専用）（以下「マネープール・マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とします。
主な運用方針	マネープール・マザーファンドを通じ、日本の発行体が発行する円建ての公社債を中心に投資し、元本の安定性と安定した収益の確保を図るとともに、高い流動性の確保に配慮します。
ベンチマーク <sup>*1</sup>	ありません。
運用会社（委託会社）	J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社 <sup>*2</sup>

\*1 「ベンチマーク」とは、投資先ファンドの運用成果を測る際に比較の基準とする指標のことをいいます。

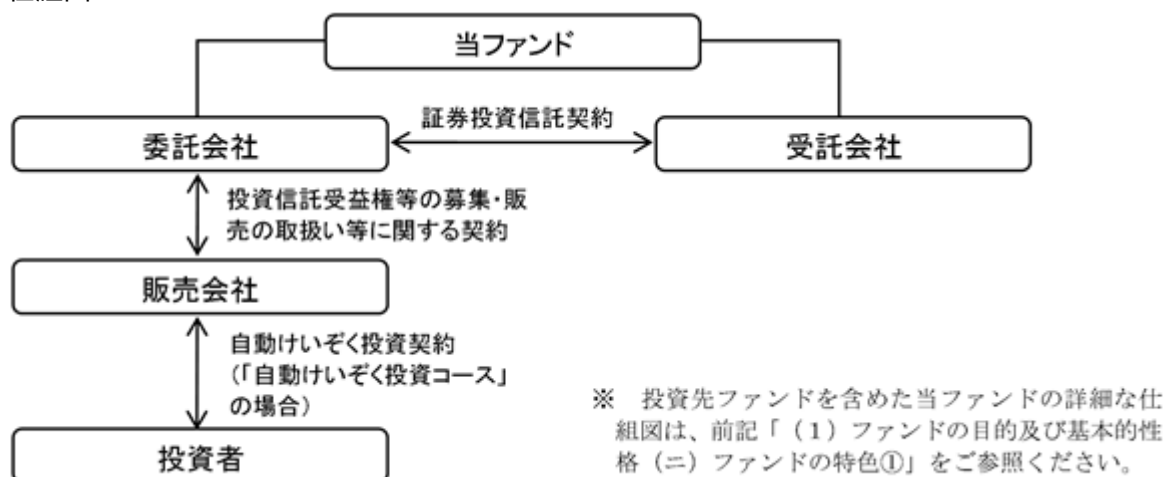
\*2 J . P . モルガン・インベストメント・マネージメント・インク、J Pモルガン・アセット・マネジメント（UK）リミテッドおよびJ Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社は、J . P . モルガン・アセット・マネジメントの一員です。

## （2）【ファンドの沿革】

平成26年6月30日 当ファンドの信託契約締結、および設定・運用開始

## （3）【ファンドの仕組み】

## （イ）仕組図



## （ロ）当ファンドの委託会社および関係法人の名称、役割、委託会社等が締結している契約等の概要

J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社（委託会社）

当ファンドの委託会社として、受益権の発行、信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。

三菱UFJ信託銀行株式会社（受託会社）

（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）

委託会社との契約により、当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理業務および信託財産の計算等を行います。

## 販売会社

委託会社との契約により、当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、目論見書の交付、運用報告書に記載すべき事項のうち重要な事項のみを記載した交付運用報告書の交付代行、収益分配金の再投資に関する事務、収益分配金・一部解約金・償還金の支払い等を行います。

## (八) 委託会社の概況

資本金 2,218百万円（平成27年7月末現在）

金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第330号

設立年月日 平成2年10月18日

## 会社の沿革

昭和46年 ジャーディン・フレミング、日本市場の成長性に着目し東京に駐在員事務所を開設

昭和60年 ジャーディン・フレミング投資顧問株式会社設立、有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律施行に伴い、同社は昭和62年に投資一任契約にかかる業務の認可を受ける。

平成2年 ジャーディン・フレミング投信株式会社（委託会社）設立

平成7年 ジャーディン・フレミング投資顧問株式会社とジャーディン・フレミング投信株式会社が合併し、ジャーディン・フレミング投信・投資顧問株式会社となる。

平成13年 ジェー・ピー・モルガン・フレミング・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社に商号変更

平成18年 J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社に商号変更

平成20年 J Pモルガン信託銀行株式会社より資産運用部門の事業を譲受

大株主の状況（平成27年7月末現在）

名 称	住 所	所有株式数 (株)	比率 (%)
ジェー・ピー・モルガン・アセット・マネジメント（アジア）インク	米国デラウェア州	56,265	100

## 2 【投資方針】

## (1) 【投資方針】

## (イ) 運用方針

当ファンドは、投資先ファンドを主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長をはかることを目的として運用を行います。

委託会社は、当ファンドが投資する投資先ファンドを以下の理由により選定しています。

## グローバル株式ファンド

当該投資先ファンドは、委託会社が属するJ・P・モルガン・アセット・マネジメント内の運用会社が運用するものであり、委託会社は当該運用会社の運用方針・戦略を十分理解できるものです。委託会社は、投資対象とする株式の業種や時価総額には制限を設けず、世界の株式に積極的に投資することにより収益を確保する目的から、当該投資先ファンドの運用方針について予め分析のうえ、当ファンドの運用方針に合致するものと判断し、またそれにより収益を確保することが見込まれるため、当該投資先ファンドを選定しています。

## マネープール・ファンド

当該投資先ファンドは、委託会社が運用するものであり、運用方針・戦略を十分理解することができるものです。委託会社は、元本の安定性と安定した収益を確保する目的から、主として円建ての公社債に投資し、元本の安定性と安定した収益を確保することが見込まれる当該投資先ファンドを選定しています。

### （ロ）投資態度

#### 当ファンドの投資態度

当ファンドは、投資対象とする株式の業種や時価総額には制限を設けず、世界の株式に積極的に投資することによりその収益を確保することを目的として、グローバル株式ファンドの組入比率を高位に保ちます。また、円建ての公社債への投資により安定した収益を確保することを目的として、マネープール・ファンドにも必ず投資します。

#### 投資先ファンドの投資態度および運用プロセス

##### グローバル株式ファンド

###### ・ 投資態度

主として世界の株式に積極的に投資し、資産の長期的な成長を目指します。また、投資対象とする株式の業種や時価総額には制限を設けません。時価総額の小さい株式へ投資する場合があります。ある業種や市場に集中した投資をすることがあります。

###### ・ 運用プロセス

当該投資先ファンドにおいては、その運用会社であるJ・P・モルガン・インベストメント・マネージメント・インクおよびJ Pモルガン・アセット・マネジメント（UK）リミテッドが、以下のプロセスにしたがい運用を行います。

なお、資金動向や市況動向により、次のような運用ができない場合があります。

#### ステップ1：ボトムアップ・アプローチ<sup>\*1</sup>による投資対象銘柄の候補の選出

世界の株式の中から、J・P・モルガン・アセット・マネジメントに属するアナリストが数値データに基づいて企業や株価の成長性等を測る分析（定量分析）および現地に密着した企業取材<sup>\*2</sup>等による業界動向や企業の戦略等の数値化できない事象の分析（定性分析）に基づく銘柄評価を行い、その結果をもとに投資対象銘柄の候補が選出されます。

\*1 「ボトムアップ・アプローチ」とは、経済等の予測・分析により銘柄を選定するのではなく、個別企業の調査・分析から銘柄の選定を行う運用手法をいいます。

\*2 「企業取材」とは、企業訪問、企業来訪、電話取材等を通じて、企業等の情報を得ることをいいます。

#### ステップ2：投資対象銘柄の決定

ステップ1で選出された投資対象銘柄の候補について、グローバル株式チーム<sup>\*</sup>のポートフォリオ・マネジャーは多地域にわたる各業種の分析を行うグローバル・セクター・スペシャリストとの間で意見交換し、当該候補の中から、成長力があり、かつ株価が割安と判断される銘柄をさらに絞り込みます。また、ステップ1で候補として選出されなかった銘柄やステップ1においてそもそも分析対象とならなかった銘柄についても、同チームのポートフォリオ・マネジャーとグローバル・セクター・スペシャリストとの間の意見交換を通じて、あらためて投資魅力度が高いと判断されることがあります。それらの銘柄を加え、投資対象銘柄とします。

\* 後記「（3）運用体制（ハ）投資先ファンドの運用体制 グローバル株式ファンド」をご参照ください。

### ステップ3：組入銘柄・比率の決定

当該投資先ファンドのポートフォリオ・マネジャーは、ステップ2で決定された投資対象銘柄から、相場動向、流動性等の市場環境、ポートフォリオ全体のリスク特性等を総合的に判断したうえで、最終的に当該投資先ファンドに組み入れる銘柄と組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。

### マネープール・ファンド

- ・ 投資態度  
マネープール・マザーファンドを通じ、日本の発行体が発行する円建ての公社債を中心に投資し、元本の安定性と安定した収益の確保を図るとともに、高い流動性の確保に配慮します。
- ・ 運用プロセス  
マネープール・マザーファンドは、以下のプロセスにしたがい運用を行います。  
なお、資金動向や市況動向により、次のような運用ができない場合があります。

ステップ1： 委託会社のポートフォリオ・マネジャーは、経済成長、インフレ、金利、財政、政治等マクロ面からの調査を踏まえ、市場の見通しを分析し、投資戦略を決定します。

ステップ2： 個別銘柄（債券）の発行体の信用力、評価等を分析し、個別銘柄について割安であるか、割高であるかを判断します。その過程において、どの種類の発行体にどのような配分で投資するかを併せて決定します。

ステップ3： ステップ2を踏まえ、組入銘柄を選定のうえポートフォリオを構築します。その際、ポートフォリオ全体において、信用リスク、金利変動リスク等を適切な水準で取るようにします。

<当ファンドまたはマネープール・マザーファンドにおいて行われることがある、投資者の利益を害することとなる潜在的なおそれのある取引の内容、および当該取引が投資者の利益を害しないことを確保するための措置>

委託会社は、当ファンドまたはマネープール・マザーファンドにおいて、自己または第三者の利益を図るために投資者の利益を害することとなる潜在的なおそれのある取引を行うことがあり、それらの内容は後記のとおりです。委託会社は、当該取引が投資者の利益を害しないことを確保するための措置として、社内規程等を制定してそれにしたがった管理を行うとともに、社内規程等の遵守状況についてモニタリングを必要に応じて行っています。当該措置の詳細については、後記「3 投資リスク（2）投資リスクに関する管理体制」をご参照ください。

- ・ 委託会社またはその関係会社が設定または運用する投資信託または外国投資法人が発行する有価証券の当ファンドでの組入れ
- ・ 委託会社の関係会社である証券会社が引受けを行った有価証券の当ファンドおよびマネープール・マザーファンドでの組入れ
- ・ 当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおける有価証券取引等の、委託会社の関係会社である証券会社等に対する発注
- ・ 当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおいて保有もしくは取引する有価証券または当ファンドの受益権の、委託会社またはその関係会社の役員による売買等の取引
- ・ 当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおける有価証券取引等の発注と、委託会社が運用する他の運用資産における有価証券取引等の発注を、束ねて一括して発注すること（一括発注）

- ・ 当ファンドおよびマネープール・マザーファンドの運用担当者（ポートフォリオ・マネジャー、アナリスト等）が贈答、茶菓の接待等を受けた、証券会社等に対する当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおける有価証券等の発注、または有価証券の発行体の発行する有価証券の当ファンドおよびマネープール・マザーファンドでの組入れ
- ・ 委託会社またはその関係会社と取引関係のある有価証券の発行体が発行する有価証券にかかる議決権の当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおける行使
- ・ 当ファンドおよびマネープール・マザーファンドと、委託会社が運用する他の運用資産間において行う有価証券等の取引（クロス取引）
- ・ 委託会社による当ファンドの受益権の取得申込みおよび換金

## （２）【投資対象】

（イ）当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。（JPMグローバルマイスター信託約款（以下「信託約款」といいます。））

１．次に掲げる特定資産（投資信託及び投資法人に関する法律第２条第１項で定めるものをいいます。）

イ．有価証券（金融商品取引法第２条第１項に定めるものをいいます。以下同じ。）

ロ．約束手形（前記イに該当するものを除きます。）

ハ．金銭債権（前記イまたはロに該当するものを除きます。）

２．為替手形

（ロ）委託会社は、信託金を、前記（イ）の資産のうち、外国投資法人（投資信託及び投資法人に関する法律第２条第23項で定めるものをいいます。以下同じ。）であるJPMグローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンドが発行する外国投資証券（金融商品取引法第２条第１項第11号で定めるものをいいます。以下同じ。）、および投資信託（投資信託及び投資法人に関する法律第２条第３項で定めるものをいいます。）であるGIMジャパン・マネープール・ファンドF（適格機関投資家専用）の受益権（法令により金融商品取引法第２条第１項第10号で定める投資信託の受益証券とみなされるものをいいます。以下同じ。）、ならびに次の有価証券に主として投資することを指図します。

１．国債証券

２．地方債証券

３．特別の法律により法人の発行する債券

４．社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）

５．コマーシャル・ペーパー

６．外国または外国の者の発行する証券または証書で、１から５までの証券または証書の性質を有するもの

７．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、１から４までの証券および６の証券または証書のうち１から４までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、公社債にかかる運用の指図は買現先取引（売戻条件付の買入れ）および債券貸借取引（現金担保付債券借り入れ）に限り行うことができるものとします。また、債券貸借取引（現金担保付債券借り入れ）を行う場合は、信託約款第19条にしたがいます。

（ハ）委託会社は、信託金を、前記（ロ）に掲げる有価証券のほか、次に掲げる投資対象により運用することを指図することができます。

１．預金

２．コール・ローン

３．手形割引市場において売買される手形

4．金銭債権（前記（ロ）に掲げる有価証券または1から3に掲げるもののいずれかに該当するものを除きます。）

（二）前記（ロ）の規定にかかわらず、当ファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を主として前記（ハ）に掲げる投資対象により運用することの指図ができます。

（ホ）当ファンドが投資対象とする投資先ファンドの名称、主要投資対象、主な運用方針および運用会社の名称は、以下のとおりです。

#### グローバル株式ファンド

名称	J Pモルガン・ファンズ - グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンド (JPMorgan Funds - Global Unconstrained Equity Fund)
その有価証券 (外国投資証券)	J P Mグローバル・アンコンストレインド・エクイティ (Iクラス) (JPM Global Unconstrained Equity I) (円建て)
主要投資対象	世界の株式
主な運用方針	世界の株式を中心に投資し、投資対象とする株式の業種や時価総額には制限を設けません。時価総額の小さい株式へ投資する場合があります、また、ある業種や市場に集中した投資をすることがあります。
運用会社	J . P . モルガン・インベストメント・マネージメント・インク (米国法人) J Pモルガン・アセット・マネジメント (UK) リミテッド (英国法人) (両社が共同で運用します。)

#### マネーボール・ファンド

名称	G I Mジャパン・マネーボール・ファンドF (適格機関投資家専用)
主要投資対象	マネーボール・マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
主な運用方針	マネーボール・マザーファンドを通じ、日本の発行体が発行する円建ての公社債を中心に投資し、元本の安定性と安定した収益の確保を図るとともに、高い流動性の確保に配慮します。
運用会社 (委託会社)	J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社

### (3) 【運用体制】

#### (イ) 当ファンドの運用体制

委託会社の運用商品管理部門（約40名）に所属する、ポートフォリオ・マネジャーが当ファンドの運用を行います。

当ファンドのポートフォリオ・マネジャーは、運用計画を策定し、運用計画に基づき、投資先ファンドへの投資にかかる投資判断を行います。

委託会社の運用商品管理部門は、当ファンドのポートフォリオ・マネジャーの投資判断を受け、投資先ファンドの売買執行を行います。

委託会社の運用分析部門において、ポートフォリオの分析および評価が行われ、当ファンドのポートフォリオ・マネジャーや運用部門から独立したインベストメント・ダイレクターにその情報を提供します。

運用部門から独立した委託会社の以下の部門が以下に掲げる事項その他のリスク管理を行います。

- ・ インベストメント・ダイレクターは、達成した運用成果および当ファンドが取ったリスクが妥当な水準であるかを定期的にチェックし、必要があれば是正を求めます。また、投資ガイドライン<sup>\*</sup>の遵守状況の報告を受け、必要があれば是正を求めます。
- ・ リスク管理部門は、投資ガイドライン<sup>\*</sup>の遵守状況を取引後においてモニターし、その結果必要があれば、当ファンドのポートフォリオ・マネジャーに対し、適切な対応を求める等、管理・監督を行います。

<sup>\*</sup> 「投資ガイドライン」とは、当ファンドの投資範囲、投資制限等の詳細を定めた内部のガイドラインをいいます。

（注）前記の運用体制、組織名称等は、平成27年6月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

委託会社では社内規程を定め、運用等にかかわる組織およびその組織の権限と責任を明らかにするとともに、当ファンド固有の運用に関する社内ルールを定めています。

#### （ロ）委託会社による、受託会社に対する管理体制

委託会社の事務管理部門において、日々の業務を通じ、受託会社の管理体制および知識・経験等を評価しています。また、必要に応じミーティングを行い、受託会社の業務の状況を確認しています。

#### （ハ）投資先ファンドの運用体制

以下は、投資先ファンドにおける運用体制です。

##### グローバル株式ファンド

当該投資先ファンドの運用は、グローバル株式チーム（約30名）に属するJ・P・モルガン・インベストメント・マネージメント・インクのポートフォリオ・マネジャーおよびJ Pモルガン・アセット・マネジメント（UK）リミテッドのポートフォリオ・マネジャーが共同で担当します。

グローバル株式チームは、当該投資先ファンドのポートフォリオ・マネジャーを含むJ・P・モルガン・アセット・マネジメントの各地域において株式運用を行うポートフォリオ・マネジャーとグローバル・セクター・スペシャリストで構成されます。

当該投資先ファンドのポートフォリオ・マネジャーは、グローバル・セクター・スペシャリストからの情報をもとに、グローバル株式チーム内で意見交換をしたうえで、ポートフォリオを構築します。その際、J・P・モルガン・アセット・マネジメントに属するアナリストの銘柄評価を活用します。

運用部門から独立した以下の部門が以下に掲げる事項その他のリスク管理を行います。

- ・ インベストメント・ダイレクター（J Pモルガン・アセット・マネジメント（UK）リミテッド所属）は、達成した運用成果や当該投資先ファンドが取ったリスクが妥当な水準であるか、および当該投資先ファンドの運用がその投資目標にしたがっているかを定期的にチェックし、必要があれば是正を求めます。
- ・ J・P・モルガン・インベストメント・マネージメント・インクおよびJ Pモルガン・アセット・マネジメント（UK）リミテッドのコンプライアンス部門は、取引価格の妥当性、利益相反取引の有無等、有価証券等の取引が適正であるかのチェックを行います。

- ・ J . P . モルガン・インベストメント・マネージメント・インクおよびJ Pモルガン・アセット・マネジメント（U K ）リミテッドのリスク管理部門は、投資ガイドライン<sup>\*</sup>の遵守状況を取引前・取引後においてモニターし、その結果必要があれば、当該投資先ファンドの運用を担当するポートフォリオ・マネジャーに対し、適切な対応を求める等、管理・監督を行います。また、有価証券等の取引の相手先である証券会社等のブローカーの信用リスクを管理し、特定のブローカーとの取引を制限する必要がある場合はその旨をトレーディング部門に指示します。

\* 「投資ガイドライン」とは、当該投資先ファンドの投資範囲、投資制限等の詳細を定めた内部のガイドラインをいいます。

（注1）運用体制については、J . P . モルガン・インベストメント・マネージメント・インクおよびJ Pモルガン・アセット・マネジメント（U K ）リミテッドを含めたJ . P . モルガン・アセット・マネジメントのものを記載しています。

（注2）前記の運用体制、組織名称等は、平成27年6月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

### マネープール・ファンド

以下は、当該投資先ファンドの主要投資先であるマネープール・マザーファンドにおける運用体制です。

マネープール・マザーファンドの運用は、委託会社のR D P運用本部の債券運用部が行います。

委託会社のR D P運用本部の債券運用部（3名）に所属するマネープール・マザーファンドのポートフォリオ・マネジャーは、運用計画を策定し、運用計画に基づき、投資判断を行いポートフォリオを構築し、投資判断に基づく債券の売買執行を行います。

委託会社の運用分析部門において、ポートフォリオの分析および評価が行われ、運用部門から独立したインベストメント・ダイレクターや、マネープール・マザーファンドのポートフォリオ・マネジャーにその情報を提供します。

運用部門から独立した委託会社の以下の部門が以下に掲げる事項その他のリスク管理を行います。

- ・ インベストメント・ダイレクターは、マネープール・マザーファンドの投資方針や投資制限に則ったポートフォリオであるか、およびマネープール・マザーファンドが取ったリスクが妥当な水準であるかを定期的にチェックし、必要があれば是正を求めます。また、投資ガイドライン<sup>\*</sup>の遵守状況の報告を受け、必要があれば是正を求めます。
- ・ コンプライアンス部門は、取引価格の妥当性、利益相反取引の有無等、有価証券等の取引が適正であるかのチェックを行います。
- ・ リスク管理部門は、投資ガイドライン<sup>\*</sup>の遵守状況を取引前・取引後においてモニターし、その結果必要があれば、マネープール・マザーファンドのポートフォリオ・マネジャーに対し、適切な対応を求める等、管理・監督を行います。また、有価証券等の取引の相手先である証券会社等のブローカーの信用リスクを管理し、特定のブローカーとの取引を制限する必要がある場合はその旨をトレーディング部門に指示します。

\* 「投資ガイドライン」とは、マネープール・マザーファンドの投資範囲、投資制限等の詳細を定めた内部のガイドラインをいいます。

（注）前記の運用体制、組織名称等は、平成27年6月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

委託会社では社内規程を定め、運用等にかかわる組織およびその組織の権限と責任を明らかにするとともに、マネープール・ファンドおよびマネープール・マザーファンド固有の運用に関する社内ルールを定めています。



- ・ マネープール・ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおける委託会社による、受託会社に対する管理体制

委託会社の事務管理部門において、日々の業務を通じ、受託会社の管理体制および知識・経験等を評価しています。また、必要に応じミーティングを行い、受託会社の業務の状況を確認しています。

#### (4)【分配方針】

毎計算期間終了時に、以下の方針に基づき分配を行います。

なお、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

##### 分配対象額の範囲

計算期間終了日における、信託約款第34条第1項各号に定める受益者に分配することができる額と、分配準備積立金等の合計額とします。

なお、分配対象額の範囲には収益調整金が含まれます。

##### 収益分配金の分配方針

委託会社は、前記の分配対象額の範囲内で、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。

##### 収益を留保した場合の留保益の運用方針

留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

#### <参考>

##### 収益分配金の支払いについて

収益分配金は、計算期間終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる計算期間終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。)に、原則として計算期間終了日から起算して5営業日目までに支払いを開始します。

「自動けいぞく投資コース」を申込みの場合は、収益分配金は税引き後無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

##### 収益分配金に関する留意事項

- ・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費<sup>\*1</sup>控除後の配当等収益<sup>\*2</sup>および評価益を含む売買益<sup>\*3</sup>)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- ・ 受益者の当ファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。当ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

\*1 後記「4手数料等及び税金」の「(3)信託報酬等」および「(4)その他の手数料等」をご参照ください。

\*2 信託約款第34条第1項第1号をご参照ください。

\*3 信託約款第34条第1項第2号をご参照ください。

## （５）【投資制限】

（イ）信託約款は、委託会社による当ファンドの運用に関して以下のような一定の制限および限度を定めています。

株式への投資制限

株式への直接投資は行いません。

外貨建資産への投資制限

外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます。）への投資割合には、制限を設けません。

投資信託および外国投資信託の受益証券ならびに投資証券および外国投資証券への投資制限

投資信託および外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいい、法令により当該受益証券とみなされる受益権を含みます。）ならびに投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）および外国投資証券への投資割合には、制限を設けません。

特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券（外国通貨表示の有価証券をいいます。）への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

一部解約の請求および有価証券の売却等の指図

委託会社は、信託財産に属する投資信託の受益権にかかる信託契約の一部解約の請求、信託財産に属する有価証券の売却等に関して一切の指図ができます。

再投資の指図

委託会社は、の規定による一部解約金および有価証券の売却代金、有価証券にかかる償還金および分配金、有価証券にかかる利金その他の収入金を再投資することの指図ができます。

公社債の借入れ

A 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れ（債券貸借取引（現金担保付債券借り入れ）にかかるものに限ります。以下において同じ。）の指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたっては、現金により担保を提供する指図を行うものとします。

B 前記Aの公社債の借入れにかかる指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額（信託約款第8条第2項に規定するものをいいます。以下 およびにおいて同じ。）の範囲内となるように行います。

C 信託財産の一部解約等の事由により、前記Aの借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。

D 前記Aの借入れにかかる品借料は、信託財産中から支弁します。

資金の借入れ

A 委託会社は、信託財産の効率的な運用および運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

- B 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券の売却代金の受渡日までの間、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する信託約款第16条第2項各号に掲げる投資対象の解約代金入金日までの間、または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券の売却代金、当該投資対象の解約代金および当該有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- C 再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的とする借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- D 借入金の利息は信託財産中より支弁します。  
受託会社による資金の立替え
- A 信託財産に属する有価証券について、転換がある場合で、委託会社の申出があるときは、受託会社は資金の立替えをすることができます。
- B 信託財産に属する有価証券にかかる償還金および分配金、有価証券にかかる利金その他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積み得るものがあるときは、受託会社がこれを立て替えて信託財産に繰り入れることができます。
- C 前記AおよびBの立替金の決済および利息については、受託会社と委託会社との協議によりそのつど別にこれを定めます。

(ロ) 投資先ファンドにおいてデリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。以下「2投資方針」において同じ。）が行われている場合（マネープール・マザーファンドを通じて実質的にデリバティブ取引が行われている場合を含みます。）には、委託会社は、投資先ファンドにおけるデリバティブ取引による投資についてのリスク量（以下「市場リスク量」といいます。）が、当ファンドの純資産総額の80%以内となるよう当ファンドにおいて管理するものとします。ただし、実際には投資先ファンドにおいてデリバティブ取引を行っていない場合には、当該管理を行わないことができます。市場リスク量は、平成19年金融庁告示第59号「金融商品取引業者の市場リスク相当額、取引先リスク相当額及び基礎的リスク相当額の算出の基準等を定める件」における「市場リスク相当額」の算出方法のうち、内部管理モデル方式（バリュー・アット・リスク方式）による市場リスク相当額の算出方法を参考に算出するものとします。（以下同じ。）

(ハ) 投資先ファンドおよびマネープール・マザーファンドの主な投資制限は、以下のとおりです。

- ・ グローバル株式ファンド  
1企業に対する投資比率は、当該投資先ファンドの総資産額の10%以下とします。  
当該投資先ファンドの総資産額の5%を超えて投資する企業への投資比率の総計は、当該投資先ファンドの総資産額の40%以下とします。
- ・ マネープール・ファンド  
株式への実質投資割合は、当該投資先ファンドの純資産総額の10%以下とします。  
外貨建資産には投資しません。
- ・ マネープール・マザーファンド  
株式への投資割合は、当該マザーファンドの純資産総額の10%以下とします。  
外貨建資産には投資しません。

## （参考）

マネープール・ファンドについて、投資信託及び投資法人に関する法律には以下のような投資制限があります。（マネープール・マザーファンドにも同様の投資制限があります。）

委託会社は、同一の法人の発行する株式について、委託会社が運用の指図を行う全ての委託者指図型投資信託につき投資信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、当該株式を当該投資先ファンドの投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図してはなりません。

マネープール・ファンドおよびマネープール・マザーファンドについて、金融商品取引業等に関する内閣府令には以下のような投資制限があります。

委託会社は、マネープール・ファンドまたはマネープール・マザーファンドの信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引を行い、または継続することを受託会社に指図してはなりません。具体的には以下のとおりです。

## （マネープール・ファンド）

マネープール・ファンドにおいてデリバティブ取引を行う場合（マネープール・マザーファンドを通じて実質的にデリバティブ取引を行う場合を含みます。）は、マネープール・ファンドにおける市場リスク量が、マネープール・ファンドの純資産総額の80%以内となるよう管理するものとします。ただし、実際にはデリバティブ取引を行っていない場合には、当該管理を行わないことができます。

## （マネープール・マザーファンド）

マネープール・マザーファンドにおいてデリバティブ取引を行う場合は、マネープール・マザーファンドにおける市場リスク量が、マネープール・マザーファンドの純資産総額の80%以内となるよう管理するものとします。ただし、実際にはデリバティブ取引を行っていない場合には、当該管理を行わないことができます。

### 3【投資リスク】

#### （１）リスク要因

当ファンドは、投資先ファンドを主要投資対象とし、また投資先ファンドは実質的に国内外の有価証券を主要投資対象として運用を行うため、以下に説明するような、投資先ファンドのリスクと同等のものを伴います。以下のリスクおよび留意点に関する説明は特に記載のない限り、投資先ファンドについてのものですが、当該リスクおよび留意点は結果的に当ファンドに影響を及ぼすものです。なお、以下の説明は、全てのリスクについて記載したのではなく、それ以外のリスクも存在することがあります。

投資先ファンドは、国内外の有価証券を投資対象としますので、組入有価証券の価格の下落や、組入有価証券の発行体の財務状況の悪化や倒産等の影響により、その信託財産の価値が下落し、その結果当ファンドが損失を被ることがあります。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、当ファンドは元本が保証されているものではありません。当ファンドに生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。当ファンドは預貯金と異なります。

#### 投資先ファンドのリスク

##### グローバル株式ファンド

##### 株価変動リスク

株式の価格は、政治・経済情勢、発行会社の業績・財務状況の変化による影響を受け、変動することがあります。（発行会社の財務状況の悪化、倒産等により価格がゼロになることもあります。）また株式の価格は、株式市場における需給や流動性の影響を受け、変動することがあります。当該投資先ファンドは、株価の上昇を捉えることを目標とした、積極的な運用を行うため、株式（株価指数先物取引を含みます。）の組入比率は高位に保ちます。そのため、当該投資先ファンドの信託財産の価値は、株式の価格変動の結果、大幅に変動・下落する可能性があります。当該投資先ファンドのポートフォリオには中小型株式が含まれる場合がありますが、その場合大型株式への投資に比べて大きなリスクを伴います。中小型株式の発行会社の業績・財務状況は、国内外の政治・経済情勢からより大きな影響を受け、大型株式に比べ、株価がより大幅に変動する可能性があります。このリスクは、比較的小規模で業歴の浅い発行会社の株式に投資する場合にはより高くなります。

##### 為替変動リスク

当該投資先ファンドは、主として外貨建資産に投資しますが、為替ヘッジを行いません。このため、為替相場の変動により当該投資先ファンドの基準価額が変動します。

##### カントリーリスク

新興国<sup>\*</sup>に投資した場合には以下のようなリスクがあり、その影響を受け当該投資先ファンドの基準価額が変動・下落することがあります。

\* 「新興国」とは、グローバル株式ファンドの運用会社が国内経済が成長過程にあると判断する国をいいます。

- ・ 先進国と比較して、一般的に政治、経済、社会情勢等が不安定・脆弱な面があり、これらに起因する諸問題が株式や通貨の価格に大きく影響する可能性があります。
- ・ 株式・通貨市場は、規模が小さく流動性が低い場合があり、その結果株式・通貨の価格変動が大きくなる可能性があります。
- ・ 先進国と比較して、有価証券が取引される市場、会計基準等に関する法規制の制度や社会基盤が未整備で、財務状況等の情報開示の基準や証券決済の仕組みが異なる場合があり、また、政府当局が様々な規制を一方的に導入することもあることから、予期しない運用上の制約を受けることがあります。

- ・ 税制は先進国と異なる面がある場合があります。また、税制が一方的に変更されたり、新たな税制が適用されたりすることもあります。

保有する株式にかかる選択権付権利および議決権については、当該株式が取引されている市場の規制や法律等の制限により、自由に行使できない場合があります。

投資対象国によっては、保有有価証券の売却益に対してキャピタル・ゲイン税やその他の税（以下「キャピタル・ゲイン税等」といいます。）が課せられる場合があります。その場合当該投資先ファンドはキャピタル・ゲイン税等の計算のため、現地の税務顧問を使用することがあります。当該税務顧問に対する費用は、当該投資先ファンドの純資産総額の規模にかかわらず発生する性質のものである場合が多く、当該投資先ファンドの純資産総額の規模が小さくなった場合には、当該投資先ファンドの基準価額に対する影響が当該投資先ファンドの純資産総額の規模が大きい場合に比べて、大きくなることが予想されます。

#### 流動性リスク

新興国の株式は先進国の株式に比べて、市場での売買高が少ない場合があります。注文が成立しないこと、売買が成立しても注文時に想定していた価格と大きく異なることがあります。特に、急激かつ大量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合には、そのような状況に陥る可能性が高まります。この場合には、当該株式の価格の下落により、当該投資先ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。また、当該投資先ファンドのポートフォリオには中小型株式が含まれる場合がありますが、その場合大型株式に比べて、市場での売買高が少ないことがあります。注文が成立しないこと、売買が成立しても注文時に想定していた価格と大きく異なることがあります。特に、急激かつ大量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合には、そのような状況に陥る可能性が高まります。この場合には、当該株式の価格の下落により、当該投資先ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。

#### デリバティブ商品のリスク

当該投資先ファンドは、先物、オプション、スワップ取引等のデリバティブ商品を用いる場合があります。デリバティブ商品は、その他の投資手段と比較して、株価等の市場環境の変動に対してより大きく価格が変動するため、当該投資先ファンドの基準価額はデリバティブ商品を用いない場合と比べてより大きく変動する場合があります。デリバティブ商品を利用した場合、意図した効果をもたらさず損失または収益機会の逸失の原因となる場合があります。デリバティブ商品の取引契約の相手に債務不履行が生じた場合は損失が生じる可能性があります。デリバティブ商品の種類によってはコストが発生し当該投資先ファンドの収益をその分減少させることがあります。デリバティブ商品を利用する際には、ブローカーに取引にかかる証拠金（現金または有価証券）を差し入れなければならないことがあります。そのような証拠金の保全にかかる制度は、ブローカーの所在国やデリバティブ商品の取引市場によって異なり、また個々のブローカーとの取引条件によって異なることもあります。その結果、証拠金を差し入れたブローカーに対する信用リスクが発生することがあり、当該ブローカーが倒産等の破綻状況に陥った場合は、証拠金の全額を失う可能性があります。

## カバード・ワラント、株価連動社債のリスク

当該投資先ファンドがカバード・ワラント<sup>\*</sup>や株価連動社債<sup>\*</sup>に投資する場合、当該有価証券の原資産（連動対象となる株式または株価指数）にかかる株価変動リスク、為替変動リスク等に加え、当該有価証券の発行体自体の信用リスクも生じます。なお、一般に信用リスクとは、債務者の倒産や財務状況の悪化、あるいは債務者の所在する国家の政情不安等により、債務者が債権者に対して元本・償還金・利息をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなるリスクをいいます。一般に、債務者にそのような状況が生じた場合またはそれが予想される場合には、当該債務者が発行する債券やカバード・ワラントの価格は下落（価格がゼロになることもあります。）しやすくなります。そのため、当該投資先ファンドの基準価額が下がる要因となります。

\* 「カバード・ワラント」とは、オプション（ある原資産について、あらかじめ決められた将来の一定の日または期間において、一定のレートまたは価格で取引する権利）を証券化したものをいい、「株価連動社債」とは、ある株式（複数の銘柄の場合を含みます。）の価格に連動する投資成果を得ることを目的として組成される社債をいいます。

### 銘柄選定方法に関するリスク

当該投資先ファンドは、世界の株式を主要投資対象としますが、そのポートフォリオの構成銘柄は、株式市場全体やベンチマークとは異なるものになります。そのため、当該投資先ファンドの基準価額の変動が、株式市場全体の動きやベンチマークの動きと異なり、大きく上下する可能性があります。これにより、投資元本を割り込むことも考えられます。

### 投資銘柄集中リスク

当該投資先ファンドは少数の銘柄に集中して投資する場合があります。このため、株式市場全体の動きやベンチマークの動きと異なり、当該投資先ファンドの基準価額が大きく上下することがあります。それにより、投資元本を割り込むこともあります。

### 投資方針の変更について

経済情勢や投資環境の変化、または投資効率の観点等から、投資対象または投資手法の変更を行う場合があります。また、ベンチマークを変更することもあります。

### 解約・追加による資金流出入に伴うリスクおよび留意点

当該投資先ファンドにおいて、一度に大量の解約があった場合に、解約資金の手当てをするため保有有価証券を大量に売却することがあります。その際に当該投資先ファンドの基準価額が大きく変動する可能性があります。また、大量の資金の追加があった場合には、原則として、迅速に有価証券の組入れを行います。買付け予定銘柄によっては流動性等の観点から買付け終了までに時間がかかることもあります。なお、当該投資先ファンドにおける解約・追加は、当ファンドによる換金・追加によるものばかりではなく、他の投資者による解約・追加によるものがあります。

### 予測不可能な事態が起きた場合等について

その他予測不可能な事態（天変地異、クーデター等）が起きたとき等、市場が混乱することが考えられます。このような場合に、有価証券が取引される市場の取引停止等やむを得ない事情があるときは、一時的に当該投資先ファンドが換金できないこともあります。また、これらの事情や有価証券の売買にかかる代金の受渡しに関する障害が起きた場合等には、当該投資先ファンドの換金代金の支払いが遅延することや、一時的に当該投資先ファンドの運用方針に基づいた運用ができなくなるリスクがあります。さらに、当該投資先ファンドは、短期間に大量の解約があった場合等に、十分な資産規模にならないことがあります。その場合、本書で説明する運用方針および投資態度に完全に合致した運用ができないおそれがあり、その結果当該投資先ファンドの基準価額が大きく変動したり、適切な資産規模の場合と比較して収益性が劣ることとなる可能性があります。

## マネープール・ファンド

当該投資先ファンドは、マネープール・マザーファンドの受益証券を主要投資対象として運用を行うため、以下に説明するような、マネープール・マザーファンドのリスクと同等のものを伴います。以下のリスクおよび留意点に関する説明は特に記載のない限り、マネープール・マザーファンドについてのものですが、当該リスクおよび留意点は結果的に当該投資先ファンドに影響を及ぼすものです。

### 信用リスク

債券の発行体の財務状況の悪化や倒産、所在する国家の政情不安等により、元本・利息の支払いが遅れたり、元本・利息が支払えない状態になった場合、またはそれが予想される場合には、当該債券の価格が変動・下落（価格がゼロになることもあります。）することがあります。また、格付機関<sup>\*</sup>は、債券の発行体の信用力に変化があったと判断した場合、格付<sup>\*</sup>を変更することがあり、これによって当該債券の価格は変動・下落（価格がゼロになることもあります。）することがあります。

<sup>\*</sup> 「格付機関」とは、債券の発行体の財政状況等を総合的に分析判断し格付を付与する企業をいい、スタンダード&プアーズ・レーティングズ・サービス、ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク等の格付機関が格付を付与します。「格付」とは、債券の元本・利息の支払いの確実性の度合いを一定の指標で表したものをいいます。

### 金利変動リスク

金利の変動が債券の価格に影響を及ぼします。一般に、金利が上昇した場合には、債券の価格が下落します。金利変動による債券の値動きの幅は、債券の償還までの残存期間、発行体、債券の種類等に左右されます。

### 流動性リスク

急激かつ大量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に債券を売買できない状況に陥る可能性が高まります。この場合には、当該債券の価格の下落により、マネープール・マザーファンドの信託財産の価値が影響を受けることがあります。

### 投資方針の変更について

経済情勢や投資環境の変化、または投資効率の観点等から、当該投資先ファンドまたはマネープール・マザーファンドの投資対象および投資手法の変更を行う場合があります。

### 解約・追加による資金流出入に伴うリスクおよび留意点

一度に大量の解約があった場合に、解約資金の手当てをするため保有有価証券を大量に売却することがあります。その際にマネープール・マザーファンドの信託財産の価値が変動する可能性があります。また、大量の資金の追加があった場合には、原則として、迅速に有価証券の組入れを行います。買付け予定銘柄によっては流動性等の観点から買付け終了までに時間がかかることもあります。さらに、マネープール・マザーファンドを投資対象とする他の投資信託が設定されている場合には、当該投資信託の解約・追加により生じる同様の資金流出入に伴うリスクがあります。

### 繰上げ償還等について

当該投資先ファンドは、信託期間中において、信託財産の純資産総額が20億円を下回ることとなった場合、委託会社が受益者のため有利であると認める場合、またはやむを得ない事情が発生した場合には、信託期間の途中であっても繰上げ償還することがあります。



#### 予測不可能な事態が起きた場合等について

その他予測不可能な事態（天変地異、クーデター等）が起きたとき等、市場が混乱することが考えられます。このような場合に、有価証券が取引される市場の取引停止等やむを得ない事情があるときは、一時的に当該投資先ファンドの受益権およびマネープール・マザーファンドの受益証券が換金できないこともあります。また、これらの事情や有価証券の売買にかかる代金の受渡しに関する障害が起きた場合等には、当該投資先ファンドの受益権の換金代金の支払いが遅延することや、一時的に当該投資先ファンドおよびマネープール・マザーファンドの運用方針に基づいた運用ができなくなるリスクがあります。さらに、当該投資先ファンドおよびマネープール・マザーファンドは、短期間に大量の解約があった場合等に、信託財産が十分な資産規模にならないことがあります。その場合、本書で説明する運用方針および投資態度に完全に合致した運用ができないおそれがあり、その結果当該投資先ファンドおよびマネープール・マザーファンドの信託財産の価値が変動したり、適切な資産規模の場合と比較して収益性が劣ることとなる可能性があります。

#### 当ファンドのリスク

##### 為替変動リスク

当ファンドは、実質的に外貨建資産に投資しますが、為替ヘッジを行いません。このため、為替相場の変動により当ファンドの基準価額が変動します。

##### 投資方針の変更について

経済情勢や投資環境の変化、または投資効率の観点等から、投資対象または投資手法の変更を行う場合があります。

##### 繰上げ償還等について

当ファンドは、信託期間中において、信託財産の純資産総額が20億円を下回ることとなった場合、委託会社が受益者のため有利であると認める場合、またはやむを得ない事情が発生した場合には、信託期間の途中であっても繰上げ償還することがあります。また、当ファンドは、投資環境の変化等により、委託会社が当ファンドの申込期間を更新しないことや申込みの受付を停止することがあります。この場合は新たに当ファンドを購入することはできなくなります。

##### 予測不可能な事態が起きた場合等について

投資先ファンドにおいてその他予測不可能な事態（天変地異、クーデター等）が起きた場合等に、当ファンドの受益権の換金代金の支払いが遅延することや、一時的に当ファンドの運用方針に基づいた運用ができなくなるリスクがあります。

## 参考情報

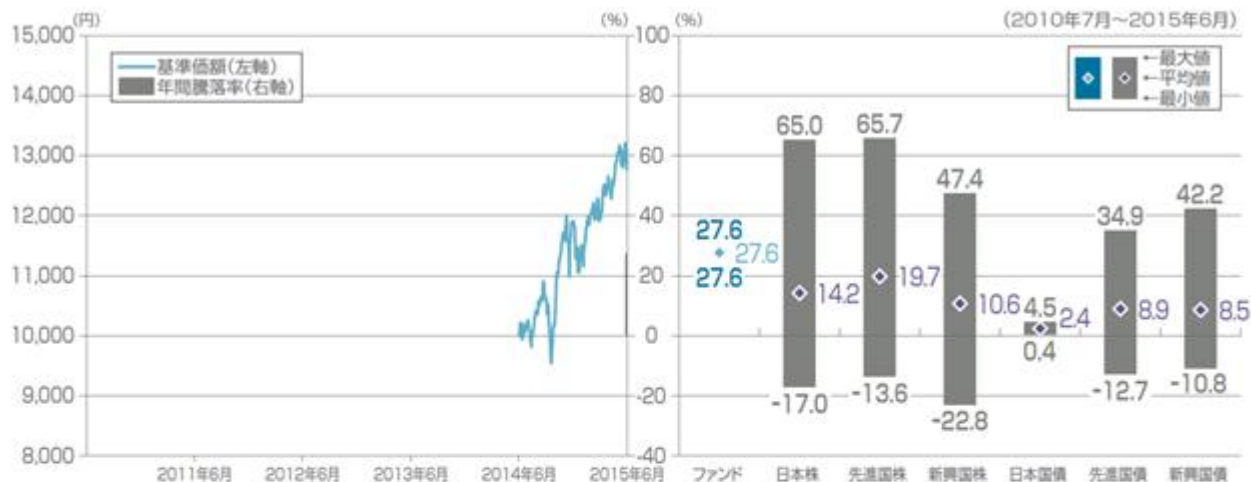
下記グラフは、ファンドの投資リスクをご理解いただくための情報の一つとしてご利用ください。

### <ファンドの基準価額・年間騰落率の推移>

2010年7月～2015年6月の5年間における、ファンドの基準価額(日次)と、年間騰落率(毎月末時点)の推移を示したものです。

### <ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較>

左のグラフと同じ期間における年間騰落率(毎月末時点)の平均と振れ幅を、ファンドと代表的な資産クラスとの間で比較したものです。



(ご注意)

- 基準価額は、信託報酬控除後です。
- ファンドの年間騰落率(毎月末時点)は、毎月末とその1年前における基準価額を対比して、その騰落率を算出したものです。(月末が休日の場合は直前の営業日を月末とみなします。設定から1年未満の時点では算出されません。)
- 代表的な資産クラスの年間騰落率(毎月末時点)は、毎月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。(月末が休日の場合は直前の営業日を月末とみなします。)
- ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の毎月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。なお、ファンドは設定から1年を経過していないため、平均・最大・最小は同一値となります。
- ファンドは、代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。

○代表的な資産クラスを表す指数

- 日本株・・・TOPIX(配当込み)
- 先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)
- 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)
- 日本国債・・・NOMURA-BPI(国債)
- 先進国債・・・シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
- 新興国債・・・JPモルガンGBI-エマージング・マーケット・グローバル(円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジを行わないものとして算出されたものです。なお、MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、委託会社で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(東証)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東証に帰属しています。なお、ファンドは、東証により提供、保証または販売されるものではなく、東証の発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を負いません。

MSCIコクサイ指数およびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が発表しています。同インデックスに関する情報の確実性および完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。著作権はMSCI Inc.に帰属しています。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、同社が発表したMSCIコクサイ指数(配当込み、米ドルベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、米ドルベース)を委託会社にて円ベースに換算したものです。

NOMURA-BPI(国債)は、野村證券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、野村證券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権はCitigroup Index LLCに帰属しています。

JPモルガンGBI-エマージング・マーケット・グローバルは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

## (2) 投資リスクに関する管理体制

## (イ) 当ファンドにおけるリスク管理

委託会社においては、運用部門から独立した以下の部門が以下に掲げる事項その他のリスク管理を行います。

インベストメント・ダイレクターは、達成した運用成果および当ファンドが取ったリスクが妥当な水準であるかを定期的にチェックし、必要があれば是正を求めます。また、投資ガイドライン<sup>\*</sup>の遵守状況の報告を受け、必要があれば是正を求めます。

リスク管理部門は、投資ガイドライン<sup>\*</sup>の遵守状況を取引後においてモニターし、その結果必要があれば、当ファンドのポートフォリオ・マネジャーに対し、適切な対応を求める等、管理・監督を行います。

\* 「投資ガイドライン」とは、当ファンドの投資範囲、投資制限等の詳細を定めた内部のガイドラインをいいます。

## (ロ) 投資先ファンドにおけるリスク管理

## グローバル株式ファンド

以下は、当該投資先ファンドの運用会社であるJ.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インクおよびJ.P.モルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドにおけるものです。

同社においては、運用部門から独立した以下の部門が以下に掲げる事項その他のリスク管理を行います。



(平成27年6月末現在)

- ・ インベストメント・ダイレクター（J.P.モルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド所属）は、達成した運用成果や当該投資先ファンドが取ったリスクが妥当な水準であるか、および当該投資先ファンドの運用がその投資目標にしたがっているかを定期的にチェックし、必要があれば是正を求めます。
- ・ J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インクおよびJ.P.モルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドのコンプライアンス部門は、取引価格の妥当性、利益相反取引の有無等、有価証券等の取引が適正であるかのチェックを行います。
- ・ J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インクおよびJ.P.モルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドのリスク管理部門は、投資ガイドライン<sup>\*</sup>の遵守状況を取引前・取引後においてモニターし、その結果必要があれば、当該投資先ファンドの運用を担当するポートフォリオ・マネジャーに対し、適切な対応を求める等、管理・監督を行います。また、有価証券等の取引の相手先である証券会社等のブローカーの信用リスクを管理し、特定のブローカーとの取引を制限する必要がある場合はその旨をトレーディング部門に指示します。

\* 「投資ガイドライン」とは、当該投資先ファンドの投資範囲、投資制限等の詳細を定めた内部のガイドラインをいいます。

## マネープール・ファンド

以下は、当該投資先ファンドの主要投資先であるマネープール・マザーファンドにおけるものです。

委託会社においては、運用部門から独立した以下の部門が以下に掲げる事項その他のリスク管理を行います。



（平成27年6月末現在）

- ・ インベストメント・ダイレクターは、マネープール・マザーファンドの投資方針や投資制限に則ったポートフォリオであるか、およびマネープール・マザーファンドが取ったリスクが妥当な水準であるかを定期的にチェックし、必要があれば是正を求めます。また、投資ガイドライン<sup>\*</sup>の遵守状況の報告を受け、必要があれば是正を求めます。
- ・ コンプライアンス部門は、取引価格の妥当性、利益相反取引の有無等、有価証券等の取引が適正であるかのチェックを行います。
- ・ リスク管理部門は、投資ガイドライン<sup>\*</sup>の遵守状況を取引前・取引後においてモニターし、その結果必要があれば、マネープール・マザーファンドのポートフォリオ・マネジャーに対し、適切な対応を求める等、管理・監督を行います。また、有価証券等の取引の相手先である証券会社等のブローカーの信用リスクを管理し、特定のブローカーとの取引を制限する必要がある場合はその旨をトレーディング部門に指示します。

\* 「投資ガイドライン」とは、マネープール・マザーファンドの投資範囲、投資制限等の詳細を定めた内部のガイドラインをいいます。

## その他のリスク管理

グローバル株式ファンドのポートフォリオ・マネジャーおよびマネープール・マザーファンドのポートフォリオ・マネジャーは、投資資産の流動性が低下することにより投資資産の換金等が困難となる事態に備え、当ファンドにおける申込みおよび換金に伴う入出金を日々把握し、投資者の換金に極力影響が生じないように管理します。

<当ファンドまたはマネープール・マザーファンドにおいて行われることがある、投資者の利益を害することとなる潜在的なおそれのある取引が、投資者の利益を害しないことを確保するための措置の詳細>

委託会社が当ファンドまたはマネープール・マザーファンドにおいて行うことがある、自己または第三者の利益を図るために投資者の利益を害することとなる潜在的なおそれのある取引が、投資者の利益を害しないことを確保するための措置の詳細は以下のとおりです。

投資者の利益を害することとなる潜在的なおそれのある取引の内容	投資者の利益を害しないことを確保するための措置
委託会社またはその関係会社が設定または運用する投資信託または外国投資法人が発行する有価証券の当ファンドでの組入れ	社内規程等において新規ファンドを設定する際の手続を定め、当該手続にしたがって当ファンドの設定時に様々な観点から問題点を検証しています。その際、委託会社またはその関係会社が設定等する投資信託等が発行する有価証券を組入れることに伴う問題点も検証し、投資者の利益を害しないことを確認したうえで当ファンドを設定しています。また、組入れる当該有価証券の名称は、交付目論見書において明示し、また請求目論見書においてはそれと共に組入れ理由も説明しています。
委託会社の関係会社である証券会社が引受けを行った有価証券の当ファンドおよびマネープール・マザーファンドでの組入れ	関係会社である証券会社が引受けを行った有価証券の組入れにあたっては、社内規程等に基づき、原則として、関係会社である証券会社から購入せず、引受団に属する他の証券会社から購入することとしています。また、コンプライアンス部門は、組入れ後に組入れの事跡をモニタリングし、社内規程等に違反していないことを確認します。さらに、リスク管理部門が、組入銘柄が投資ガイドラインにおいて問題なく投資できるものであることを取引前・取引後においてモニタリングしています。
当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおける有価証券取引等の、委託会社の関係会社である証券会社等に対する発注	社内規程に基づき、各証券会社等の調査能力、売買執行能力等を考慮して、発注先として選定する証券会社等を定期的に見直します。株式については、前記で選定した証券会社への予定発注量も定期的に見直したうえで、リスク管理部門とインベストメント・ダイレクターが各証券会社への実際の発注量を定期的にモニタリングし、関係会社である証券会社に対し合理的な理由なく多量に発注されていないことを確認しています。株式以外については、関係会社であるかどうかに関わりなく、最良の取引条件となる証券会社等に発注しているかをコンプライアンス部門が確認しています。なお、当ファンドおよびマネープール・マザーファンドが関係会社である証券会社に対し支払った売買委託手数料の額（手数料相当額が取引の価格に織り込まれているものを除きます。）は、当ファンドの運用報告書で開示されます。
当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおいて保有もしくは取引する有価証券または当ファンドの受益権の、委託会社またはその関係会社の役職員による売買等の取引	委託会社の役職員による有価証券の売買等の取引は、社内規程に基づき原則としてコンプライアンス部門の事前承認を得ることが義務付けられており、利益相反をうかがわせる事実がないことが確認できた場合のみ承認がなされます。また、取引後にコンプライアンス部門が取引内容を精査し、役職員の取引の時期・銘柄が、当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおいて取引されたものと重なる等の利益相反が生じていないことを確認します。
当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおける有価証券取引等の発注と、委託会社が運用する他の運用資産における有価証券取引等の発注を、束ねて一括して発注すること（一括発注）	一括発注は、社内規程に定める条件の下に行われ、その約定結果は社内規程に基づき、発注のあった運用資産間で公平に配分します。コンプライアンス部門は、配分結果が社内規程にしたがって公平になされたかどうかをモニタリングします。

当ファンドおよびマネープール・マザーファンドの運用担当者（ポートフォリオ・マネジャー、アナリスト等）が贈答、茶菓の接待等を受けた、証券会社等に対する当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおける有価証券等の発注、または有価証券の発行体の発行する有価証券の当ファンドおよびマネープール・マザーファンドでの組入れ	委託会社の役職員が贈答、茶菓の接待等を受けた際は、原則として社内規程に基づきその内容をコンプライアンス部門に報告する義務があります。コンプライアンス部門は、当該報告に基づき、贈答、茶菓の接待等を受けたことが、特定の証券会社等への取引の発注や特定の銘柄の有価証券の組入れにつながっていないことをモニタリングします。
委託会社またはその関係会社と取引関係のある有価証券の発行体が発行する有価証券にかかる議決権の当ファンドおよびマネープール・マザーファンドにおける行使	当ファンドおよびマネープール・マザーファンドで保有する有価証券にかかる議決権の行使は、社内規程に基づいて、当ファンドの受益者の経済的利益に最も資するという原則の下に行われます。インベストメント・ダイレクターは、議決権行使の前にその内容が社内規程に沿っているか確認します。
当ファンドおよびマネープール・マザーファンドと、委託会社が運用する他の運用資産間において行う有価証券等の取引（クロス取引）	有価証券届出書提出日現在、社内規程によりクロス取引は原則として禁止されています。今後、クロス取引を行う場合には、社内規程を変更して投資者の利益を損ねることのない一定の条件を定め、当該条件を満たすクロス取引のみを行うこととし、当該条件の逸脱がないことをコンプライアンス部門がモニタリングする体制を構築する予定です。
委託会社による当ファンドの受益権の取得申込みおよび換金	委託会社による当ファンドの受益権の取得申込みおよび換金は、社内規程に則り、取得申込みの目的および金額、受益権の保有期間、換金時期等について一定の制限を設けて、一般的な投資者の利益を害しないように行います。また、財務部門が、社内規程にしたがった取得申込み等が行われていることをモニタリングします。

#### 4【手数料等及び税金】

##### (1)【申込手数料】

発行価格に販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。ただし、有価証券届出書提出日現在、販売会社における手数料率は、3.78%（税抜3.50%）が上限となっています。

申込手数料<sup>\*</sup>の詳細（具体的な手数料率、徴収時期、徴収方法）については、販売会社にお問い合わせください。

\* 購入時における当ファンド・投資環境についての説明・情報提供、事務手続き等の対価として、販売会社に支払われます。

自動けいぞく投資契約に基づいて収益分配金を再投資する場合は、無手数料とします。

販売会社に関しては、以下の照会先までお問い合わせください。

照会先：

J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社

TEL：03 - 6736 - 2350（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

HPアドレス：<http://www.jpmorganasset.co.jp/>

当ファンドによる投資先ファンドの有価証券の取得申込時およびマネープール・ファンドによるマネープール・マザーファンドの受益証券の取得申込時に、申込手数料はかかりません。

##### (2)【換金（解約）手数料】

当ファンドの受益権の換金時に、換金手数料はかかりません。

当ファンドによる投資先ファンドの有価証券の換金時およびマネープール・ファンドによるマネープール・マザーファンドの受益証券の換金時に、換金手数料はかかりません。

( 3 ) 【信託報酬等】

委託会社および受託会社の信託報酬の総額は、当ファンドの計算期間を通じて毎日、前営業日の信託財産の純資産総額に対し年率1.1124%（税抜1.03%）を乗じて得た額とします。

委託会社は、收受した信託報酬から販売会社に対し、委託会社が販売会社に委託した業務に対する報酬を支払います。その結果、実質的な信託報酬の配分は、次のとおりとなります。

	委託会社	販売会社	受託会社
信託報酬の配分 (純資産総額 に対し)	年率0.216% (税抜0.20%)	年率0.864% (税抜0.80%)	年率0.0324% (税抜0.03%)
	投資判断、受託会社に対する指図等の運用業務、目論見書、運用報告書等の開示資料作成業務、基準価額の計算業務、およびこれらに付随する業務の対価	受益者の口座管理業務、収益分配金・換金代金・償還金の支払い業務、交付運用報告書の交付業務、購入後の投資環境等の情報提供業務、およびこれらに付随する業務の対価	信託財産の記帳・保管・管理業務、委託会社からの指図の執行業務、信託財産の計算業務、およびこれらに付随する業務の対価

信託報酬は、毎日費用計上し、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日、毎計算期間終了日および信託終了日の翌営業日に信託財産中から支弁されます。

<ご参考：投資先ファンドの運用管理費用等>

投資先ファンド	運用管理費用または信託報酬の率 (投資先ファンドの日々の純資産総額に対し)	
グローバル株式 ファンド	運用管理費用の率：年率 0.60% (消費税等はありません。)	同ファンドの運用会社等が提供する、同ファンドの運用業務、同ファンドに関する情報提供業務、およびこれらに付随する業務の対価
マネープール・ ファンド	信託報酬率：年率0.1026% (税抜0.095%)	委託会社 投資判断、受託会社に対する指図等の運用業務、基準価額の計算業務、およびこれらに付随する業務の対価
		販売会社 当ファンドの口座管理業務、収益分配金・換金代金・償還金の支払い業務、およびこれらに付随する業務の対価
		受託会社 信託財産の記帳・保管・管理業務、委託会社からの指図の執行業務、信託財産の計算業務、およびこれらに付随する業務の対価

マネープール・マザーファンドにおいては、信託報酬はかかりません。

当ファンドの信託財産の99.9%をグローバル株式ファンドに投資した場合には、実質的な信託報酬等の負担は年率1.71%（税抜1.63%）程度（概算）となります。

#### (4) 【その他の手数料等】

##### 1 以下の費用等を信託財産で負担します。

当ファンドが主要投資対象とする投資先ファンドの有価証券への投資にあたっては、投資先ファンドにかかる以下のような費用が間接的に当ファンドの負担となります。

- (a) 運用管理費用または信託報酬
- (b) 運用に付随して発生する費用
- (c) その他費用

(a) に関しては、前記「(3) 信託報酬等」の「<ご参考：投資先ファンドの運用管理費用等>」を、また、(b) および (c) に関しては、後記「4 ご参考：投資先ファンドのその他の手数料等」をご参照ください。

また、投資先ファンドの運用状況によっては前記以外の費用がかかる場合があります。

当ファンドが主要投資対象とする投資先ファンドの有価証券以外の投資対象に投資した場合には、有価証券取引にかかる費用（売買委託手数料）\* および外国為替取引（外貨建資産に投資した場合のみ）にかかる費用\* が実費でかかります。なお、手数料相当額が取引の価格に織り込まれていることがあります。

\* 当該取引等の仲介業務およびこれに付随する業務の対価として証券会社等に支払われます。



前記 の場合に、外貨建資産に投資したときには、外貨建資産の保管費用<sup>\*</sup>が実費でかかります。

<sup>\*</sup> 当該資産の保管業務の対価として受託会社の委託先である保管銀行等に支払われます。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に関する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息および借入金の利息が実費でかかります。

- 2 委託会社は、当ファンドの目論見書の印刷に要する実費相当額について、原則として、当ファンドの信託財産中から支弁を受けるものとします。（ただし、信託約款第32条第3項に規定する場合を除きます。）

委託会社は、当該実費相当額の支弁を、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日、毎計算期間終了日および信託終了日の翌営業日以降、当ファンドの信託財産中から受けるものとします。当該実費相当額は、計算期間を通じて所定の額を毎日費用計上するものとします。（詳細については信託約款第32条第4項および第5項をご参照ください。）

前記1の費用等は、当ファンドの運用状況、保有銘柄、投資比率等により変動し、事前に確定しておらず、また、銘柄ごとに種類、金額および算出方法が異なり、費用等の概要を適切に記載することが困難なことから、具体的な種類、金額および計算方法を記載していません。また、前記2の実費相当額は、実際にかかる費用が目論見書ごとに異なることから、具体的に記載していません。さらに、前記1および2の費用等の合計額は、受益者が当ファンドの受益権を保有する期間その他の要因により変動し、表示することができないことから、記載していません。当該費用等は、認識された時点で、当ファンドおよび投資先ファンドそれぞれの計理基準にしたがい計上されます。当該費用等は、当ファンドにおいて間接的にご負担いただきます。

- 3 監査費用<sup>\*</sup>を信託財産で負担します。

<sup>\*</sup> 信託財産の財務諸表の監査業務の対価として監査法人に支払われます。

委託会社は、当ファンドの監査費用の支払いを信託財産のために行うことができます。この場合、委託会社が支払った実額に代えて、信託財産の純資産総額に年率0.0216%（税抜0.02%）を乗じて得た額（ただし、年間324万円（税抜300万円）を上限とします。）を当該監査費用とみなし、委託会社は、そのみなし額の支弁を、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日、毎計算期間終了日および信託終了日の翌営業日以降に、信託財産中から受けるものとします。委託会社が信託財産から支弁を受ける金額については、計算期間を通じて毎日費用計上するものとします。

- 4 ご参考：投資先ファンドのその他の手数料等

投資先ファンドにおいて、以下の費用等を投資先ファンドの資産で負担します。

#### グローバル株式ファンド

事務管理費用<sup>\*</sup>が実費でかかります。

ただし、当該投資先ファンドの会計期間中につき、日々の純資産総額に対し0.16%（年率）を上限とします。

<sup>\*</sup> 当該投資先ファンドの運用資産を保管する保管銀行が提供する運用資産の管理・保管業務等、および監査法人が提供する同ファンドについての監査業務の対価として支払われます。

その他費用が実費でかかります。（有価証券の売買にかかる費用<sup>\*</sup>・税金、臨時で発生する費用、その他の税金等）

<sup>\*</sup> 当該取引等の仲介業務およびこれに付随する業務の対価として証券会社等に支払われます。

カバード・ワラントまたは株価連動社債に投資する場合、その発行体が発行に関連する費用を発行価格に転嫁している場合があります。この場合、当該投資先ファンドは間接的に当該費用を負担することとなります。

投資信託もしくは外国投資信託の受益証券、投資証券、または外国投資証券(以下総称して「投資信託証券」といいます。)に投資する場合には、当該投資信託証券にかかる投資信託、外国投資信託、投資法人または外国投資法人内において発生する、以下のような費用が間接的に当該投資先ファンドの負担となります。

(a) 運用報酬

(b) 運用に付随して発生する費用

(c) 法人の運営のための各種の費用(投資法人および外国投資法人のみ)

投資信託証券の銘柄によってはこれら以外の費用がかかる場合があります。

#### マネープール・ファンド

有価証券取引にかかる費用(売買委託手数料)<sup>\*</sup>が実費でかかります。なお、手数料相当額が取引の価格に織り込まれていることがあります。

<sup>\*</sup> 当該取引等の仲介業務およびこれに付随する業務の対価として証券会社等に支払われます。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に関する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息および借入金の利息が実費でかかります。

投資信託証券に投資する場合には、当該投資信託証券にかかる投資信託、外国投資信託、投資法人または外国投資法人内において発生する、以下のような費用が間接的に当該投資先ファンドの負担となります。

(a) 運用報酬(信託報酬)

(b) 運用に付随して発生する費用

(c) 法人の運営のための各種の費用(投資法人および外国投資法人のみ)

投資信託証券の銘柄によってはこれら以外の費用がかかる場合があります。

当該投資先ファンドの監査費用<sup>\*</sup>は、実際に支払う金額を支弁する方法に代えて、それぞれの信託財産の純資産総額に年率0.0216%(税抜0.02%)を乗じて得た額(ただし、年間324万円(税抜300万円)を上限とします。)を当該監査費用とみなし、委託会社はそのみなし額の支弁を、当該投資先ファンドの毎計算期間の最初の6ヵ月終了日、毎計算期間終了日および信託終了日の翌営業日以降、当該投資先ファンドの信託財産中から受けるものとします。委託会社が当該投資先ファンドの信託財産から支弁を受ける金額については、当該投資先ファンドの計算期間を通じて毎日費用計上するものとします。

<sup>\*</sup> 信託財産の財務諸表の監査業務の対価として監査法人に支払われます。

マネープール・マザーファンドにおいても、前記 から までの費用等を負担します。

#### (5) 【課税上の取扱い】

日本の居住者(法人を含みます。)である受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなります。

なお、税法が改正された場合には、以下の内容が変更になることがあります。以下の税制は平成27年7月末現在成立しているものです。

#### 個別元本について

追加型の株式投資信託については、受益者毎の信託時の受益権の価額等(申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等は含まれません。)が当該受益者の元本(個別元本)にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行う都度当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、同一販売会社であっても、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の両コースで取得する場合にはそれぞれ別個に、個別元本が計算される場合があります。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店等毎に個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。(「元本払戻金(特別分配金)」については、後記「収益分配金の課税について」をご参照ください。)

#### 収益分配金の課税について

追加型の株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。また、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

#### 法人、個人別の課税の取扱いについて

##### (a) 個人の受益者に対する課税

###### (イ) 収益分配金

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については配当所得となり、税率は20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%)<sup>\*</sup>となります。なお、収益分配金のうち課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金(特別分配金)は課税されません。

原則として、源泉徴収による申告不要制度が適用されます。また、確定申告を行い、申告分離課税もしくは総合課税のいずれかを選択することもできます。

<sup>\*</sup> 平成49年12月31日までの税率です。

###### (ロ) 一部解約時・償還時

解約価額および償還価額から取得費<sup>\*1</sup>を控除した差益は譲渡所得等として、申告分離課税となり、確定申告を行うことが必要となります。税率は20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%)<sup>\*2</sup>となります。当該控除結果がマイナスの場合は「差損」となり、損益通算の対象となります。(損益通算については後記(八)損益通算についてをご参照ください。)

前記にかかわらず、販売会社において源泉徴収ありの特定口座をご利用の場合確定申告は不要となり、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%)<sup>\*2</sup>の税率で源泉徴収されます。

<sup>\*1</sup> 「取得費」とは、個別元本に申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等を加算した額をいいます。

<sup>\*2</sup> 平成49年12月31日までの税率です。

## （八）損益通算について

公募株式投資信託<sup>\*1</sup>（当ファンドを含みます。以下同じ。）の一部解約時、償還時および買取請求時の差損、ならびにその他の上場株式等<sup>\*2</sup>の譲渡損は、一定の条件の下で公募株式投資信託の一部解約時、償還時および買取請求時の差益ならびに収益分配金、ならびにその他の上場株式等の譲渡益および配当金と損益通算が可能です。また、ある年における損益通算の結果、譲渡益等から控除しきれない損失がある場合は、その翌年以降3年間当該損失を繰越して、同様の損益通算において控除の対象とすることができます。損益通算の条件等については、税務専門家（税務署等）または販売会社にご確認ください。

\*1 「公募株式投資信託」とは、不特定多数の投資者を対象に販売することを目的として設定され、信託約款上において債券以外の組入れが可能である投資信託をいいます。

\*2 「上場株式等」とは、上場株式、上場特定株式投資信託（ETF）、上場特定不動産投資信託（REIT）および公募株式投資信託等をいいます。詳しくは税務専門家（税務署等）にお問い合わせください。

<平成28年1月1日以降、以下の通り変更になります。>

公募株式投資信託<sup>\*1</sup>（当ファンドを含みます。以下同じ。）の配当所得および譲渡所得、ならびにその他の上場株式等<sup>\*2</sup>の利子所得、配当所得および譲渡所得の各所得間において損益通算が可能です。また、ある年における損益通算の結果、譲渡益等から控除しきれない損失がある場合は、その翌年以降3年間当該損失を繰越して、同様の損益通算において控除の対象とすることができます。損益通算の条件等については、税務専門家（税務署等）または販売会社にご確認ください。

\*1 「公募株式投資信託」とは、不特定多数の投資者を対象に販売することを目的として設定され、信託約款上において債券以外の組入れが可能である投資信託をいいます。

\*2 「上場株式等」とは、上場株式、上場特定株式投資信託（ETF）、上場特定不動産投資信託（REIT）および公募株式投資信託ならびに特定公社債および公募公社債投資信託等をいいます。詳しくは税務専門家（税務署等）にお問い合わせください。

## （二）少額投資非課税制度について

公募株式投資信託は、税法上の少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISA（ニーサ）をご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに取得した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、その年の1月1日現在満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方が対象となります。なお、NISA（ニーサ）をご利用の場合、非課税口座で生じた配当所得および譲渡所得を、非課税口座以外で生じた配当所得および譲渡所得と損益通算することはできません。詳しくは、販売会社にご確認ください。

<平成28年1月1日以降、以下の通り変更になります。>

公募株式投資信託は、税法上の少額投資非課税制度である「NISA」および「ジュニアNISA」の適用対象です。毎年、NISAをご利用の場合は年間120万円の範囲で、またジュニアNISAをご利用の場合は年間80万円の範囲で、新たに取得した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、その年の1月1日現在、NISAをご利用の場合は満20歳以上の方、ジュニアNISAをご利用の場合は満20歳未満の方で、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方が対象となります。なお、少額投資非課税制度をご利用の場合、非課税口座で生じた配当所得および譲渡所得を、非課税口座以外で生じた配当所得および譲渡所得と損益通算することはできません。詳しくは販売会社にご確認ください。

( b ) 法人の受益者に対する課税

法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）<sup>\*</sup>の税率で源泉徴収され法人の受取額となります。なお、地方税の源泉徴収はありません。また、元本払戻金（特別分配金）は課税されません。益金不算入制度は適用されません。

<sup>\*</sup> 平成49年12月31日までの税率です。

（注）平成27年4月1日以後に開始する事業年度における益金不算入制度の適用はありません。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家（税務署等）に確認することをお勧めします。

## 5【運用状況】

## (1)【投資状況】

(平成27年7月1日現在)

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	1,001,599	0.03
投資証券	ルクセンブルク	3,375,750,967	99.17
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	27,389,522	0.80
合計(純資産総額)		3,404,142,088	100.00

(注)投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## (2)【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

(平成27年7月1日現在)

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	JPM GL UNCONSTRAINED EQ I JPY	260,857.041	13,448.53	3,508,144,326	12,941	3,375,750,967	99.17
2	日本	投資信託受益証券	GIMジャパン・マネープール・ファンドF(適格機関投資家専用)	999,401	1.002	1,001,399	1.0022	1,001,599	0.03

## 種類別投資比率

(平成27年7月1日現在)

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	0.03
投資証券	99.17

## 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## ( 3 ) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

平成27年7月1日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり 純資産額 (円) (分配落)	1口当たり 純資産額 (円) (分配付)
1期	(平成27年6月26日)	3,513	3,513	1.3100	1.3100
	平成26年7月末日	1,823	-	1.0266	-
	平成26年8月末日	2,219	-	1.0346	-
	平成26年9月末日	2,873	-	1.0578	-
	平成26年10月末日	3,221	-	1.0366	-
	平成26年11月末日	3,097	-	1.1668	-
	平成26年12月末日	3,388	-	1.1916	-
	平成27年1月末日	3,325	-	1.1261	-
	平成27年2月末日	3,743	-	1.2013	-
	平成27年3月末日	3,731	-	1.2085	-
	平成27年4月末日	3,943	-	1.2472	-
	平成27年5月末日	3,788	-	1.3061	-
	平成27年6月末日	3,439	-	1.2761	-
	平成27年7月1日	3,404	-	1.2609	-

## 【分配の推移】

期	1口当たり分配金(円)
1期	0.0000

## 【収益率の推移】

期	収益率(%)
1期	31.00

(注) 収益率とは計算期間末の基準価額(分配付)から当初設定時の基準価額を控除した額を当初設定時の基準価額で除したものです。

## ( 4 ) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の残存口数は次の通りです。

期	設定口数(口)	解約口数(口)	残存口数(口)
1期	7,518,432,881	4,836,420,521	2,682,012,360

(注1) 第1期の設定口数には、当初申込期間中の設定口数を含みます。

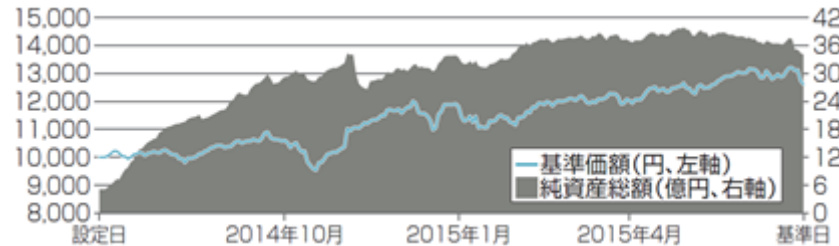
(注2) 設定口数、解約口数は、全て本邦内におけるものです。

## &lt;参考情報&gt;

最新の運用実績は、委託会社ホームページ（<http://www.jpmorganasset.co.jp/>）、または販売会社でご確認いただけます。  
過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準日	2015年7月1日	設定日	2014年6月30日
純資産総額	34億円	決算回数	年1回

## 基準価額・純資産の推移



\* 基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

## 分配の推移

期	年月	円
1期	2015年6月	0
	設定来累計	0

\* 分配金は税引前1万口当たりの金額です。

## ポートフォリオの構成状況

資産の種類	投資比率 1
J Pモルガン・ファンズ・グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンド	99.2%
G I Mジャパン・マネーブル・ファンドF（適格機関投資家専用）	0.0%
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	0.8%
合計（純資産総額）	100.0%

## 国別構成状況

投資国 2	投資比率 3
アメリカ	53.4%
イギリス	7.3%
フランス	6.4%
中国	4.9%
スイス	4.4%
その他	22.7%

## 通貨別構成状況

通貨	投資比率 3
米ドル	68.3%
ユーロ	8.7%
イギリスポンド	7.3%
スイスフラン	4.4%
香港ドル	3.0%
その他	7.4%

## 業種別構成状況

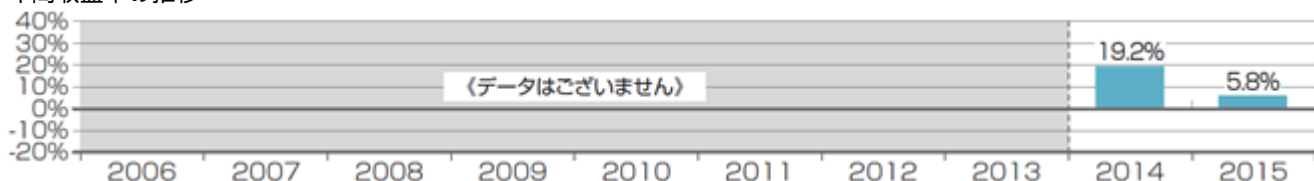
業種	投資比率 3
金融	26.6%
情報技術	21.7%
ヘルスケア	21.3%
一般消費財・サービス	13.3%
エネルギー	5.7%
その他	9.6%

\* 上記比率に投資先ファンドが保有する公社債および投資信託証券は含んでいません。

## 組入上位銘柄

順位	銘柄名	投資国*2	通貨	業種	投資比率*3
1	グーグル	アメリカ	米ドル	情報技術	3.1%
2	21世紀フォックス	アメリカ	米ドル	一般消費財・サービス	3.0%
3	シティグループ	アメリカ	米ドル	金融	3.0%
4	テバ・ファーマシューティカル・インダストリーズ	イスラエル	米ドル	ヘルスケア	3.0%
5	百度【バイドゥ】	中国	米ドル	情報技術	2.9%
6	ジョンソン・エンド・ジョンソン	アメリカ	米ドル	ヘルスケア	2.8%
7	バークレイズ	イギリス	イギリスポンド	金融	2.6%
8	サノフィ	フランス	ユーロ	ヘルスケア	2.5%
9	グリフォルス	スペイン	米ドル	ヘルスケア	2.4%
10	タイム	アメリカ	米ドル	一般消費財・サービス	2.4%

## 年間収益率の推移



\* 年間収益率（%）=（年末営業日の基準価額÷前年末営業日の基準価額-1）×100

\* 2014年の年間収益率は設定日から年末営業日、2015年の年間収益率は前年末営業日から2015年7月1日までのものです。

\* ベンチマークは設定していません。

\* 投資信託証券とは、投資信託もしくは外国投資信託の受益証券、投資証券、または外国投資証券の総称です。

\* 当ページにおける「ファンド」は、「JPMグローバルマスター」です。

運用実績において、金額は表示単位以下を切捨て、投資比率および収益率は表示単位以下を四捨五入して記載しています。

- 各比率はファンドの純資産総額に対する比率を記載しています。
- 国はMSCI分類、業種はMSCI10分類に基づき分類していますが、「J.P.モルガン・アセット・マネジメント」の判断に基づき分類したものが一部含まれます。「J.P.モルガン・アセット・マネジメント」とは、「J.P.モルガン・チェース・アンド・カンパニー」および世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。
- ファンドは各投資先ファンドを通じて投資を行うため、各投資先ファンドの投資銘柄をファンドが直接保有しているものとみなし、ファンドの純資産総額に対する投資比率として計算しています。なお、運用実績の基準日のファンドの基準価額算出に使用されているデータ（J.P.モルガン・ファンズ・グローバル・アイコンストレインド・エクイティ・ファンドおよびG I Mジャパン・マネーブル・ファンドF（適格機関投資家専用）は2015年6月30日のもの）を使用しています。



## 第2【管理及び運営】

### 1【申込（販売）手続等】

#### 申込方法

申込期間中の毎営業日に販売会社において、販売会社所定の方法で当ファンドの受益権の取得申込みの受付が行われます。

ただし、委託会社が指定する日には、取得申込みの受付は行いません。

取得申込みの受付を行わない日（申込受付中止日）については、販売会社にお問い合わせください。

#### 申込価格

取得申込日の翌営業日の基準価額とします。

取得申込みには申込手数料を要します。

#### 申込単位

販売会社が定める単位とします。

ただし、「自動けいぞく投資コース」において収益分配金を再投資する場合は、1円以上1円単位とします。

#### 受渡方法

##### (a) 取得申込代金の支払いについて

投資者は、申込みの販売会社が定める日までに取得申込代金を当該販売会社に支払うものとします。

##### (b) 受益権の引渡しについて

当ファンドの受益権は振替受益権のため、申込みの販売会社が、取得申込代金の支払いと引き換えに振替機関等の口座に投資者にかかる受益権口数の増加を記載または記録することにより、受益権の引渡しが行われます。当該口座は、当該投資者が販売会社に取得申込みと同時にまたはあらかじめ申し出た口座とします。なお、委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。

#### 受付時間

原則として午後3時までとします。ただし、販売会社によっては受付時間が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

### 申込みの中止

有価証券が取引される市場における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（予測不可能な事態等が起きた場合を含みます。）により、基準価額が確定できない事情があるときは、取得申込みの受付が中止される場合があります。その場合には、投資者は当該受付中止以前に行った当日の取得申込みを撤回できます。ただし、投資者がその取得申込みを撤回しない場合には、その取得申込みは当該事情が解消した後の最初の基準価額の計算日にその取得申込みを受付けられたものとして取扱うこととします。

### 申込取扱場所

申込期間中、販売会社において申込みを取扱います。

販売会社に関しては、以下の照会先までお問い合わせください。

照会先：

J P モルガン・アセット・マネジメント株式会社

TEL：03 - 6736 - 2350（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

HPアドレス：<http://www.jpmorganasset.co.jp/>

## 2【換金（解約）手続等】

### 換金方法

原則として毎営業日に販売会社にて解約請求により受け取ります。

ただし、委託会社が指定する日には、換金申込みの受付は行いません。

換金申込みの受付を行わない日（申込受付中止日）については、販売会社にお問い合わせください。

### 換金価格

換金申込日の翌営業日の基準価額とします。

（課税については、「第1ファンドの状況 4手数料等及び税金（5）課税上の取扱い」をご参照ください。）

換金価格は、毎営業日に計算され、販売会社に問い合わせることにより知ることができます。

販売会社に関しては、前記「1申込（販売）手続等 申込取扱場所」の照会先までお問い合わせください。

換金時に手数料はかかりません。

### 換金単位

販売会社が定める単位とします。

### 受渡方法

#### （a）換金代金の支払いについて

原則として換金申込日から起算して7営業日目から、販売会社の本・支店等において支払います。

### (b) 受益権の引渡しについて

当ファンドの受益権は振替受益権のため、換金申込みを行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の申込みにかかる当ファンドの一部解約の通知を委託会社が行うのと引き換えに、販売会社を通じて当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少を記載または記録することにより、受益権の引渡しが行われます。なお、換金申込みは振替受益権をもって行うものとします。

#### 受付時間

原則として午後3時までとします。ただし、販売会社によっては受付時間が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

#### 換金中止

有価証券が取引される市場における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（予測不可能な事態等が起きた場合を含みます。）により、基準価額が確定できない事情があるときは、換金申込みの受付が中止される場合があります。その場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の換金申込みを撤回できます。ただし、受益者がその換金申込みを撤回しない場合には、その換金申込みは当該事情が解消した後の最初の基準価額の計算日にその換金申込みを受け付けたものとして取扱うこととします。

## 3【資産管理等の概要】

### (1)【資産の評価】

受益権1口当たりの純資産価額（基準価額）は、原則として各営業日に委託会社が計算します。受益権1口当たりの純資産価額は、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、便宜上1万口当たりに換算した価額で表示することがあります。

信託財産に属する外貨建資産の円換算は、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算し、外国為替予約の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算します。

受益権1万口当たりの基準価額は、販売会社に問い合わせることにより知ることができます。また、受益権1万口当たりの基準価額は、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

販売会社に関しては、以下の照会先までお問い合わせください。

照会先：

J P モルガン・アセット・マネジメント株式会社

TEL：03-6736-2350（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

HPアドレス：<http://www.jpmorganasset.co.jp/>

### (2)【保管】

該当事項はありません。

**(3) 【信託期間】**

平成26年6月30日から平成36年6月26日（休業日の場合は翌営業日）までです。ただし、後記「(5) その他 信託の終了等」に記載する特定の場合には、信託期間満了前に信託は終了します。

なお、委託会社は、信託期間満了前に信託期間の延長が受益者に有利であると認めるときは、受託会社と協議のうえ、信託約款を変更し、信託期間を延長することができます。

**(4) 【計算期間】**

当ファンドの計算期間は、毎年6月27日から翌年6月26日までとします。ただし、計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

なお、計算期間終了日を「決算日」ということがあり、前記より当ファンドの決算日は原則として毎年6月26日（該当日が休業日の場合は翌営業日）となります。

**(5) 【その他】**

信託の終了等（詳しくは、信託約款をご参照ください。）

**(a) 信託契約の解約**

a. 委託会社は、当ファンドの純資産総額が20億円を下回ることとなった場合、当ファンドの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認める場合、またはやむを得ない事情が発生した場合は、受託会社と合意のうえ、当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社はあらかじめ解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

b. 委託会社は、前記a. の場合において、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合委託会社は、あらかじめ書面決議の日、信託契約の解約の理由等の事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。

c. 前記b. の書面決議において、受益者（委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下c. において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

d. 前記b. の書面決議は、議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

e. 前記b. からd. までの規定は、前記a. において委託会社が当ファンドの信託契約の解約をしようとする場合において、当該解約につき、すべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状況に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記b. からd. までに規定する当ファンドの信託契約の解約の手続を行うことが困難な場合には適用しません。

**(b) 信託契約に関する監督官庁の命令**

委託会社は、監督官庁より当ファンドの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。また、委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、後記「信託約款の変更等」の規定にしたがいます。

(c) 委託会社の登録取消に伴う取扱い

委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が当ファンドの信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じたときは、後記「信託約款の変更等」での書面決議で否決された場合を除き、当ファンドはその委託会社と受託会社との間において存続します。

(d) 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、当ファンドの信託契約に関する事業を譲渡することがあります。また、委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、当ファンドの信託契約に関する事業は承継されることがあります。

(e) 受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申し立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、後記「信託約款の変更等」の規定にしたがうとともに、新受託会社を選任します。ただし、委託会社が新受託会社を選任できないときは、当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。なお、受益者は、前記の手続による場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。

信託約款の変更等（詳しくは、信託約款をご参照ください。）

(a) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することまたは当ファンドと他の投資信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、信託約款は に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

(b) 委託会社は、前記(a)の場合のうち重大なもの（以下「重大な約款の変更等」といいます。）において、書面決議を行います。「重大な約款の変更等」とは、信託約款の変更のうちその内容が重大なもの、および併合のうち受益者の利益に及ぼす影響が軽微でないものをいいます。（以下同じ。）この場合委託会社は、あらかじめ書面決議の日、重大な約款の変更等の内容およびその理由等の事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

(c) 前記(b)の書面決議において、受益者（委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下(c)において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

(d) 前記(b)の書面決議は、議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

(e) 書面決議の効力は、当ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。

(f) 前記(b)から(e)までの規定は、前記(a)において委託会社が重大な約款の変更等しようとする場合において、当該重大な約款の変更等につき、すべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

(g) 前記(a)から(f)までの規定にかかわらず、当ファンドにおいて併合（受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものを除きます。以下(g)において同じ。）の書面決議が可決された場合であっても、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

#### 運用報告書

委託会社は、当ファンドについて、計算期間終了日毎および償還時に、運用経過、信託財産の内容、有価証券の売買状況等を記載した運用報告書および運用報告書に記載すべき事項のうち重要な事項のみを記載した交付運用報告書を作成します。そのうえで、委託会社は交付運用報告書を知れている受益者に対して販売会社を通して交付します。また、運用報告書のすべての内容を委託会社のホームページに掲載します。これにより、委託会社は運用報告書を知れている受益者に対して交付したものとみなされますが、受益者から書面による運用報告書の交付の請求があった場合には、販売会社を通して交付します。

HPアドレス：<http://www.jpmorganasset.co.jp/>

#### 関係会社との契約の更新等に関する手続について

委託会社と販売会社との間の募集等の取扱い等に関する契約において、有効期間満了の3ヵ月前までに、当事者のいずれからも何らの意思表示がないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とするとされています。委託会社と販売会社との間の当該契約は、かかる規定にしたがって自動更新され、現在に至っています。当ファンドの受益権の募集等の取扱い等も当該契約に基づいています。

#### 委託会社が行う公告

委託会社が当ファンドについて行う公告は、日本経済新聞に掲載します。

#### 反対受益者の換金について

前記(a)b.または(b)における書面決議において、当ファンドの信託契約の解約または重大な約款の変更等を行うことが決議された場合に、当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買取るべき旨を請求することはできません。ただし、当該受益者は、前記「2 換金（解約）手続等」のとおり、原則として毎営業日に自己に帰属する受益権を解約請求により換金することができます。

## 4【受益者の権利等】

当ファンドの受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。この受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

受益者の有する主な権利は次のとおりです。

### (1) 収益分配金の請求権

受益者は、当ファンドにかかる収益の分配を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として毎計算期間終了日から起算して5営業日目）までに、毎計算期間終了日において振替機関等の口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる計算期間終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払いを開始します。ただし、自動けいぞく投資契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が販売会社に交付され、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。当該再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金の支払いは、販売会社において行うものとします。

収益分配金の請求権は、支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

### (2) 償還金の請求権

受益者は、償還金を持分に応じて委託会社に請求する権利を有します。

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（償還日が休業日の場合は当該償還日の翌営業日）から起算して5営業日目）までに、信託終了日において振替機関等の口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払いを開始します。当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託会社が当ファンドの償還の通知をするのと引き換えに、販売会社を通じて当該償還にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

償還金の支払いは、販売会社において行うものとします。

受益者が、償還金について前記の支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属するものとします。

### (3) 受益権の一部解約の実行請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、委託会社に一部解約を請求する権利を有します。

### (4) 帳簿の閲覧権

受益者は委託会社に対し、その営業時間内に当該受益者にかかる信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

- 1．当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。  
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 2．当ファンドの第1期計算期間は信託約款第30条により、平成26年6月30日から平成27年6月26日までとしております。
- 3．当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間（平成26年6月30日から平成27年6月26日まで）の財務諸表について、P w C あらた監査法人による監査を受けております。



## 1 【財務諸表】

## 【JPMグローバルマイスター】

## (1) 【貸借対照表】

(単位：円)

		第1期
		(平成27年6月26日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		80,111,583
投資信託受益証券		1,001,399
投資証券		3,704,645,852
未収利息		43
流動資産合計		3,785,758,877
資産合計		3,785,758,877
負債の部		
流動負債		
未払解約金		251,999,304
未払受託者報酬		583,316
未払委託者報酬		19,443,771
その他未払費用		388,816
流動負債合計		272,415,207
負債合計		272,415,207
純資産の部		
元本等		
元本		1 2,682,012,360
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )		831,331,310
(分配準備積立金)		406,671,890
元本等合計		3,513,343,670
純資産合計		3,513,343,670
負債純資産合計		3,785,758,877

## ( 2 ) 【損益及び剰余金計算書】

( 単位：円 )

	第 1 期 (自 平成26年 6 月30日 至 平成27年 6 月26日)
営業収益	
受取利息	26,086
有価証券売買等損益	908,003,408
営業収益合計	908,029,494
営業費用	
受託者報酬	985,665
委託者報酬	32,855,350
その他費用	1,072,289
営業費用合計	34,913,304
営業利益	873,116,190
経常利益	873,116,190
当期純利益	873,116,190
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	466,444,300
期首剰余金又は期首欠損金 ( )	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	799,623,706
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	799,623,706
剰余金減少額又は欠損金増加額	374,964,286
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	374,964,286
分配金	1 -
期末剰余金又は期末欠損金 ( )	831,331,310

## ( 3 ) 【注記表】

## ( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

	当財務諸表対象期間
有価証券の評価基準および評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、投資信託受益証券の基準価額で評価しております。</p> <p>投資証券 移動平均法に基づき、以下のとおり原則として時価で評価しております。</p> <p>(1)金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の最終相場）で評価しております。 計算期間末日に当該金融商品取引所等の最終相場がない場合には、当該金融商品取引所等における直近の日の最終相場で評価しておりますが、直近の日の最終相場によることが適当でない認められた場合は、当該金融商品取引所等における計算期間末日又は直近の日の気配相場で評価しております。</p> <p>(2)金融商品取引所等に上場されていない有価証券 当該有価証券については、原則として、日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融機関の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>(3)時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>

## ( 貸借対照表に関する注記 )

区分	第 1 期 (平成27年 6 月26日現在)
1 信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額および期中解約元本額	
期首元本額	511,113,843円
期中追加設定元本額	7,007,319,038円
期中一部解約元本額	4,836,420,521円
計算期間末日における受益権の総数	2,682,012,360口
1 口当たりの純資産額	1.3100円
( 1 万口当たりの純資産額 )	(13,100円)

## （損益及び剰余金計算書に関する注記）

区分	第 1 期 (自 平成26年 6 月30日 至 平成27年 6 月26日)
1 分配金の計算過程	
費用控除後の配当等収益額	14,606円
費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	406,657,284円
収益調整金額	424,659,420円
分配準備積立金額	- 円
当ファンドの分配対象収益額	831,331,310円
当ファンドの期末残存口数	2,682,012,360口
1万口当たり収益分配対象額	3,099.65円
1万口当たり分配金額	- 円
収益分配金金額	- 円

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する注記

	当財務諸表対象期間
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容およびそのリスク	当ファンドが保有した主な金融商品は、投資信託受益証券および投資証券であります。当ファンドが保有した金融商品には、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、流動性のリスクがあります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドで投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。 (1)運用部門から独立したインベストメント・ダイレクターは、パフォーマンス評価担当部署から報告を受け、運用成果（パフォーマンス）のモニターおよびリスク指標やリスク水準のチェックを行い、必要があれば是正を求めます。更に、投資制限の管理を行います。 (2)リスク管理部門は、投資制限遵守状況の管理等、運用状況の管理・監督を行っています。

## 金融商品の時価等に関する事項

	当計算期間末
1. 貸借対照表計上額、時価およびその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませ
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2)有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	第1期 (平成27年6月26日現在)
	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	1,399
投資証券	683,271,030
合計	683,272,429

## (デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (4)【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表(平成27年6月26日現在)

## (イ)株式

該当事項はありません。

## (ロ)株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	銘柄数 比率	券面総額	評価額	備考
投資信託 受益証券	日本円	G I M ジャパン・マネープール・ファン ドF(適格機関投資家専用)		999,401	1,001,399	
	計	銘柄数:	1	999,401	1,001,399	
		組入時価比率:	0.0%		0.0%	
	小計				1,001,399	
投資証券	日本円	JPM GL UNCONSTRAINED EQ I JPY		275,376.931	3,704,645,852	
	計	銘柄数:	1	275,376.931	3,704,645,852	
		組入時価比率:	105.4%		100.0%	
	小計				3,704,645,852	
	合計				3,705,647,251	

(注)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、および各通貨計欄の合計金額に対する比率であります。

(注)投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

(注)投資証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引および為替予約取引の契約額等および時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは、「GIMジャパン・マネープール・ファンドF（適格機関投資家専用）」を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、同証券投資信託であります。

尚、「GIMジャパン・マネープール・ファンドF（適格機関投資家専用）」は「GIMマネープール・マザーファンド（適格機関投資家専用）」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、全て同親投資信託の受益証券であります。

同証券投資信託および親投資信託の状況は以下の通りであります。

以下に記載した情報は同証券投資信託の直近計算期間末における監査済財務諸表であります。尚、当ファンドの監査対象ではありません。

## 1 財務諸表

JPMジャパン・マネープール・ファンドF（適格機関投資家専用）

（1）貸借対照表

（単位：円）

区分	注記 番号	第2期	第3期
		(平成26年1月14日現在)	(平成27年1月14日現在)
		金額	金額
資産の部			
流動資産			
親投資信託受益証券		5,277,077	6,306,168
流動資産合計		5,277,077	6,306,168
資産合計		5,277,077	6,306,168
負債の部			
流動負債			
未払受託者報酬		536	707
未払委託者報酬		2,010	2,470
その他未払費用		536	608
流動負債合計		3,082	3,785
負債合計		3,082	3,785
純資産の部			
元本等			
元本	1	5,272,718	6,292,106
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		1,277	10,277
（分配準備積立金）		72,077	144,909
元本等合計		5,273,995	6,302,383
純資産合計		5,273,995	6,302,383
負債純資産合計		5,277,077	6,306,168

## ( 2 ) 損益及び剰余金計算書

( 単位：円 )

区分	注記 番号	第 2 期	第 3 期
		(自 平成25年 1月16日 至 平成26年 1月14日)	(自 平成26年 1月15日 至 平成27年 1月14日)
		金額	金額
営業収益			
有価証券売買等損益		5,498	15,332
営業収益合計		5,498	15,332
営業費用			
受託者報酬		865	1,261
委託者報酬		3,309	4,528
その他費用		821	1,155
営業費用合計		4,995	6,944
営業利益		503	8,388
経常利益		503	8,388
当期純利益		503	8,388
一部解約に伴う当期純利益金額の分 配額		-	-
期首剰余金又は期首欠損金 ( )		317	1,277
剰余金増加額又は欠損金減少額		457	612
当期追加信託に伴う剰余金増加額又 は欠損金減少額		457	612
剰余金減少額又は欠損金増加額		-	-
分配金	1	-	-
期末剰余金又は期末欠損金 ( )		1,277	10,277

## ( 3 ) 注記表

## ( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

	当財務諸表対象期間
有価証券の評価基準 および評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。

## ( 貸借対照表に関する注記 )

区分	第 2 期 (平成26年 1 月14日現在)	第 3 期 (平成27年 1 月14日現在)
1 信託財産に係る期首元本額、期中追加 設定元本額および期中解約元本額		
期首元本額	1,673,175円	5,272,718円
期中追加設定元本額	3,599,543円	1,019,388円
期中一部解約元本額	- 円	- 円
計算期間末日における受益権の総数	5,272,718口	6,292,106口
1 口当たりの純資産額 ( 1 万口当たりの純資産額)	1.0002円 (10,002円)	1.0016円 (10,016円)

## ( 損益及び剰余金計算書に関する注記 )

区分	第 2 期 (自 平成25年 1 月16日 至 平成26年 1 月14日)	第 3 期 (自 平成26年 1 月15日 至 平成27年 1 月14日)
1 分配金の計算過程		
費用控除後の配当等収益額	52,690円	72,832円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価 証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	51,585円	75,825円
分配準備積立金額	19,387円	72,077円
当ファンドの分配対象収益額	123,662円	220,734円
当ファンドの期末残存口数	5,272,718口	6,292,106口
1万口当たり収益分配対象額	234.53円	350.81円
1万口当たり分配金額	- 円	- 円
収益分配金金額	- 円	- 円
2 その他費用の内訳	監査費用 821円	監査費用 1,155円



## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する注記

	当財務諸表対象期間
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容およびそのリスク	当ファンドが保有した主な金融商品は、以下に記載される親投資信託受益証券であります。 JPMマネープール・マザーファンド（適格機関投資家専用） 親投資信託の受益証券を主要投資対象として運用を行うため、親投資信託受益証券と同様のリスクを伴います。親投資信託受益証券には、金利変動リスク、信用リスク、流動性のリスクがあります。当該リスクは結果的に当ファンドに影響を及ぼします。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドで投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。 (1)運用部門から独立したインベストメント・ダイレクターは、パフォーマンス評価担当部署から報告を受け、運用成果（パフォーマンス）のモニターおよびリスク指標やリスク水準のチェックを行い、必要があれば是正を求めます。更に、投資制限の管理を行います。 (2)リスク管理部門は、投資制限遵守状況の管理等、運用状況の管理・監督を行っています。

## 金融商品の時価等に関する事項

	各計算期間末
1. 貸借対照表計上額、時価およびその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2)有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	第2期 (平成26年1月14日現在)	第3期 (平成27年1月14日現在)
	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	5,894	15,599
合計	5,894	15,599

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（４）附属明細表

第１ 有価証券明細表（平成27年1月14日現在）

（イ）株式

該当事項はありません。

（ロ）株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
親投資信託 受益証券	日本円	J P M マネープール・マザーファンド (適格機関投資家専用)	6,249,300	6,306,168	
合計			6,249,300	6,306,168	

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引および為替予約取引の契約額等および時価の状況表

該当事項はありません。

## （参考）

当ファンドは「JPMマネープール・マザーファンド（適格機関投資家専用）」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、全て同親投資信託の受益証券であります。

尚、同親投資信託の状況は以下の通りであります。

「JPMマネープール・マザーファンド（適格機関投資家専用）」の状況

尚、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

## （1）貸借対照表

（単位：円）

区分	注記 番号	(平成26年1月14日現在)	(平成27年1月14日現在)
		金額	金額
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		27,196,227	1,178,741
国債証券		29,747,500	26,411,870
未収利息		47,998	26,900
前払費用		31,750	-
流動資産合計		57,023,475	27,617,511
資産合計		57,023,475	27,617,511
負債の部			
流動負債			
流動負債合計		-	-
負債合計		-	-
純資産の部			
元本等			
元本	1	56,656,301	27,368,568
剰余金			
剰余金又は欠損金（ ）		367,174	248,943
元本等合計		57,023,475	27,617,511
純資産合計		57,023,475	27,617,511
負債純資産合計		57,023,475	27,617,511

## ( 2 ) 注記表

## ( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

	当財務諸表対象期間
有価証券の評価基準および評価方法	<p>国債証券</p> <p>個別法に基づき、以下のとおり原則として時価で評価しております。</p> <p>(1)金融商品取引所等に上場されている有価証券</p> <p>金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の最終相場）で評価しております。</p> <p>計算期間末日に当該金融商品取引所等の最終相場がない場合には、当該金融商品取引所等における直近の日の最終相場で評価しておりますが、直近の日の最終相場によることが適当でないと認められた場合は、当該金融商品取引所等における計算期間末日又は直近の日の気配相場で評価しております。</p> <p>(2)金融商品取引所等に上場されていない有価証券</p> <p>当該有価証券については、原則として、日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融機関の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>(3)時価が入手できなかった有価証券</p> <p>適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>

## ( 貸借対照表に関する注記 )

区分	(平成26年 1月14日現在)	(平成27年 1月14日現在)
1 本報告書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額、期中追加設定元本額および期中解約元本額		
期首元本額	14,217,467円	56,656,301円
期中追加設定元本額	65,365,847円	140,300,077円
期中解約元本額	22,927,013円	169,587,810円
本報告書における開示対象ファンドの期末における元本の内訳（注）		
J P M世界鉄道関連株投信 マネープール・ファンド	51,413,303円	21,119,268円
J P Mジャパン・マネープール・ファンドF（適格機関投資家専用）	5,242,998円	6,249,300円
合 計	56,656,301円	27,368,568円
本報告書における開示対象ファンドの計算期間末日における受益権の総数	56,656,301口	27,368,568口
1口当たりの純資産額	1.0065円	1.0091円
（1万口当たりの純資産額）	(10,065円)	(10,091円)

(注) 当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する注記

	当財務諸表対象期間
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容およびそのリスク	当ファンドが保有した主な金融商品は、国債証券であります。当ファンドが保有した金融商品には、金利変動リスク、信用リスク、流動性のリスクがあります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドで投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。 (1)運用部門から独立したインベストメント・ダイレクターは、パフォーマンス評価担当部署から報告を受け、運用成果（パフォーマンス）のモニターおよびリスク指標やリスク水準のチェックを行い、必要があれば是正を求めます。更に、投資制限の管理を行います。 (2)リスク管理部門は、投資制限遵守状況の管理等、運用状況の管理・監督を行っています。

## 金融商品の時価等に関する事項

	各期間末
1. 貸借対照表計上額、時価およびその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませ
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。一部の債券時価に関しては合理的に算定された価額を採用する場合があります。合理的に算定された価額は発行体の格付けや債券の償還年限を基にした国債に対する上乗せ金利、取引業者からの提示価格、流動性、将来発生しうるキャッシュフロー、その他個々の債券の特性等を考慮して価格提供会社が算出した価格を利用しております。 (2)有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	(平成26年1月14日現在)	(平成27年1月14日現在)
	当期間の損益に含まれた評価差額 (円)	当期間の損益に含まれた評価差額 (円)
国債証券	78,690	50,050
合計	78,690	50,050

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（３）附属明細表

第１ 有価証券明細表（平成27年１月14日現在）

（イ）株式

該当事項はありません。

（ロ）株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	銘柄数 比率	券面総額	評価額	備考
国債証券	日本円	第 2 7 4 回利付国債（ 1 0 年）		25,000,000	25,349,500	
		第 2 9 3 回利付国債（ 1 0 年）		1,000,000	1,062,370	
	計	銘柄数：	2	26,000,000	26,411,870	
		組入時価比率：	95.6%		100.0%	
	小計				26,411,870	
	合計				26,411,870	

（注）比率は左より組入時価の純資産に対する比率、および各通貨計欄の合計金額に対する比率であります。

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引および為替予約取引の契約額等および時価の状況表

該当事項はありません。

## （参考）

当ファンドは、「JPM GL UNCONSTRAINED EQ I JPY」を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資証券」は、同投資証券であります。

同投資証券の状況は以下の通りであります。

以下に記載した情報は同投資証券の直近計算期間末における監査済財務諸表の抜粋であります。尚、当ファンドの監査対象ではありません。

JPMorgan Funds - Global Unconstrained Equity Fund  
純資産計算書

2014年6月30日現在

	米ドル
資産	
投資有価証券 - 時価	363,119,409
取得原価：	317,800,627
T B A 証券 - 時価	-
現金預金およびブローカー預託金	885,052
定期預金および現金同等物	-
投資有価証券売却未収金	1,411,107
T B A 証券売却未収金	-
証券発行未収金	25,767
未収利息および未収配当金、純額	1,109,709
未収還付税額	41,686
報酬免除額	-
その他の未収金	5,601
先渡為替契約未実現純利益	196,420
金融先物契約未実現純利益	-
デリバティブ商品 - 時価	-
資産合計	366,794,751
負債	
当座およびブローカー預託借越	-
T B A 証券の未決済ショート・ポジション	-
投資有価証券購入未払金	2,073,738
T B A 証券購入未払金	-
証券買戻未払金	118,352
未払運用および顧問報酬	213,664
未払実績報酬	-
その他の未払金*	66,596
先渡為替契約未実現純損失	-
金融先物契約未実現純損失	-
デリバティブ商品 - 時価	-
負債合計	2,472,350
純資産額合計	364,322,401

## 過去の純資産額合計

2013年6月30日	290,701,432
2012年6月30日	247,255,296

\* その他の未払金は主に取締役報酬、監査および税務関連報酬および費用、登録、発行、通信、印刷、法務ならびにマーケティング費用から構成されている。

JPMorgan Funds - Global Unconstrained Equity Fund  
損益および純資産変動計算書

2014年6月30日をもって終了する会計年度

	米ドル
期首現在純資産額	290,701,432
収益	
受取配当金、純額	5,898,839
受取利息、純額	22,317
証券貸付取引収益	-
受取銀行利息	15,344
スワップ取引にかかる受取利息	-
その他の収益	371,298
収益合計	6,307,798
費用	
運用および顧問報酬	2,365,041
保管、支払代行、事務および所在地代行報酬	256,699
登録および名義書換代行報酬	45,666
税金	127,818
当座借越利息	-
スワップ取引にかかる支払利息	-
その他の費用*	194,999
控除：報酬免除額	5,655
実績報酬控除前費用合計	2,984,568
実績報酬	-
費用合計	2,984,568
投資純利益(損失)	3,323,230
投資有価証券売却実現純利益(損失)	57,607,179
先渡為替契約実現純利益(損失)	1,538,227
金融先物契約実現純利益(損失)	-
為替差実現純利益(損失)	(535,072)
T B A 証券実現純利益(損失)	-
デリバティブ商品実現純利益(損失)	-
当期実現純利益(損失)	58,610,334
投資有価証券未実現利益(損失)純増減	9,065,466
先渡為替契約未実現利益(損失)純増減	334,709
金融先物契約未実現利益(損失)純増減	-
為替差未実現利益(損失)純増減	(19,801)
T B A 証券未実現利益(損失)純増減	-
デリバティブ商品未実現利益(損失)純増減	-
当期末実現利益(損失)純増減	9,380,374
事業活動による純資産増減	71,313,938
株式資本の増減	
株式発行	87,031,132
買戻し	(84,347,917)
株式資本の増減による純資産増減	2,683,215
支払配当金	(376,184)
期末現在純資産額	364,322,401

\* その他の費用は主に取締役報酬、監査および税務関連費用、登録、発行、発送、印刷、法務ならびに販売費用から成る。

## JPMorgan Funds - Global Unconstrained Equity Fund

## 財務書類に対する注記（抜粋）

2014年6月30日をもって終了する会計年度

## 1. 重要な会計方針

財務書類は投資信託に関するルクセンブルグの規制に準拠して作成されている。

## a) 投資評価

証券取引所に上場を承認されている、またはその他の規制市場で取引される譲渡性有価証券は純資産額の計算の時点で直近の入手可能な価格に基づいて評価される。

有価証券が複数の証券取引所または市場で上場もしくは取引されている場合は、直近の入手可能な価格、または適切な場合は、主たる証券取引所または市場の平均価格が適用される。

証券取引所に上場していない、またはその他の規制市場で取引されていない譲渡性有価証券は、直近の入手可能な価格で評価される。価格の入手が不可能、または直近の入手可能な価格が有価証券の適正な価値を反映していない場合には、取締役会が慎重かつ誠実に評価した合理的に予測可能な売値に基づき評価される。

オープンエンド型投資信託によって発行された有価証券は、当該ファンドまたは、その代行会社によって報告または提供される直近の入手可能な価格または純資産額によって評価される。

流動資産およびマネー・マーケット関連商品は、名目価値と未収利息の合計、または償却原価基準で評価される。

財務書類は、2014年6月30日に計算された純資産額に基づいて表示されている。目論見書に従って、純資産額は、計算時の直近の為替レートを用いて計算された。

毎日値付けされるファンドを管理するにあたり、受益証券保有者が平等な扱いを受けられるようにポートフォリオの適切な評価を確保することが取締役会の原則であるため、この観点から、管理会社は、潜在的な評価の懸案事項に対処するために公正価値委員会を設置した。2014年6月30日において公正価値の調整はなかった。

## b) 変動価格調整

運用会社がキャッシュ・インフローまたはアウトフローに対応するために有価証券の売買を引受ける場合に生じる取引およびその他の費用を反映していない価格でサブ・ファンドの受益証券を売買するため、サブ・ファンドは受益証券1口当たり純資産額の希薄化を被る可能性がある。

この影響に対応するために、変動価格メカニズムが当ファンドの受益証券保有者の利益を守るために適用される可能性がある。管理会社が定期的にサブ・ファンドについて算定し、検討する際に、評価日にサブ・ファンドの受益証券の正味取引総額が算定前の閾値を超過する場合、受益証券1口当たり純資産額は正味インフローおよび正味アウトフローをそれぞれ反映するために上方または下方修正される可能性がある。正味インフローおよび正味アウトフローは、受益証券1口当たり純資産額の算定時の直近の入手可能な情報に基づき、管理会社により算定される。変動価格メカニズムは、ジェーピーモルガン・ファンズ・グローバル・マルチ・ストラテジー・インカム・ファンド、ジェーピーモルガン・ファンズ・ハイブリッジ・ヨーロッパSTEEPファンド、ジェーピーモルガン・ファンズ・ハイブリッジUSSTEEPファンドおよびマネー・マーケットのサブ・ファンドを除くすべてのサブ・ファンドに適用される可能性がある。価格調整の範囲は、取引およびその他の費用を反映して管理会社により設定される。この調整はサブ・ファンドにより異なり、当初の受益証券1口当たり純資産額の2%を超過することはない。

従って、当報告書の統計情報に開示されている期末の公的な受益証券1口当たり純資産額は、変動価格調整を含む可能性がある。これは、純資産計算書または損益および純資産変動計算書において認識されない。期末において、変動価格調整はジェーピーモルガン・ファンズ・グローバル・アンコンストレインド・エクイティ・ファンドに適用されている。

## c) 投資有価証券実現・未実現損益

投資有価証券取引は、取引日（売買注文が執行される日）に計上される。その他の投資信託の取引に関しては、取引は名義書換代行人からの取引確認状の受領時に計上される。

投資有価証券売却実現損益は、平均帳簿価額で計算される。投資有価証券の購入日と売却日の間の為替の変動は、投資有価証券実現損益に含まれている。投資有価証券保有未実現損益は、帳簿価額の合計で計算され、関連する為替未実現損益を含んでいる。



## d) 収益認識

受取利息は日割りで計上され、該当する場合には、プレミアムの償却および割引の遞増分が含まれている。銀行預金の受取利息は発生主義に基づいて認識される。受取配当金は配当落ち日で計上される。当該収益は源泉徴収税控除後で表示され、税金還付が適用される場合に調整される。

## e) 外貨換算

サブ・ファンドの帳簿および記録は、対応するサブ・ファンドの基準通貨建である。その他の通貨建金額は、以下の基準に基づいて基準通貨に換算される。( )当初、その他の通貨で表示されていた投資評価額ならびにその他の資産および負債は、毎営業日に同営業日の実勢為替レートをを用いて基準通貨に換算される。( )外国投資の購入および売却、収益および費用は、各取引日の実勢為替レートをを用いて基準通貨に換算される。

外貨建取引の実現および未実現純損益は以下を示している。( )外貨および外貨建商品の売却および保有による為替差損益、( )有価証券取引および先渡為替契約の約定日と決済日の間の損益、および( )配当金および利息について計上された金額と実際に受け取った金額との差額により生じる損益。

換算によって生じる損益は、損益および純資産変動計算書における「為替差実現純利益（損失）」に含まれている。

計算書における基準通貨は米ドルである。

2014年6月30日に適用された主な為替レートは以下の通りである。

1米ドル = 0.73186085ユーロ

1米ドル = 0.58638989英ポンド

1米ドル = 101.37500000円

## f) 先渡為替契約

未決済の先渡為替契約の未実現損益は関連する評価日における実勢為替レートをもとに評価される。当該金額の変動は損益および純資産変動計算書における「先渡為替契約未実現利益（損失）純増減」に含まれている。未実現損益は純資産計算書における「先渡為替契約未実現純利益（損失）」に計上されている。

## 2. 金融商品の評価および関連リスク

当SICAVは、先渡為替契約、金融先物契約、オプションおよびスワップを締結しており、それらは純資産計算書に反映された金額を超過する市場リスクを、程度は各々で異なるが、表している。当該契約の金額は、当SICAVがこれらの金融商品に対しどの程度関与しているかを示している。当該契約に関連した市場リスクは、これらの商品の対象となる為替レート、インデックスおよび有価証券評価において生じ得る変動により生じるものである。

固定利付証券への投資は、金利、セクター、担保および信用リスクの影響を受ける。高利回り債は格付の低い有価証券であり、通常、これらの有価証券が持つ低い信用力または増大するデフォルト・リスクを補うために、通常より高い利回りを提供する。

その他の市場リスクおよび信用リスクには、当該契約において非流動的な市場の存在の可能性、当該契約の評価額の変動が対象となる通貨、インデックス、または有価証券の評価額の変動と直接相関関係がない可能性、もしくは当該契約の相手方が契約条項に基づき履行すべき義務を履行できない可能性が含まれている。

サブ・ファンドのいくつかが投資することになる新興市場および開発が進んでいない市場において、法律、司法および規制のインフラは依然発展途上にあり、当該市場関係者にとってもまた、外国人関係者にとっても法律上の不確実性が多く存在する。投資家にとってよりリスクの高い市場もあるため、投資家は投資前に関連するリスクを理解し、かつ投資がポートフォリオの一部として適切であると納得していることを確認すべきである。市場によっては、取引先リスクのエクスポージャーを最小限にするための、券面・金額を同時決済させる安全な仕組みが存在しないことがある。証券の受領前の購入代金の支払い、また場合によっては売却代金受領前の証券引渡しが必要となることがある。



株数/ 額面金額	銘柄	時価	純資産に 占める 割合(%)
その他の規制市場で取引される譲渡性有価証券			
投資ファンド			
ルクセンブルク			
2,318,941	JPMorgan Liquidity Funds - US Dollar Liquidity Fund (JPM US Dollar Liquidity X (dist))	2,318,941	0.64
		<u>2,318,941</u>	<u>0.64</u>
	投資ファンド合計	<u>2,318,941</u>	<u>0.64</u>
	その他の規制市場で取引さ れる譲渡性有価証券合計	<u>363,119,409</u>	<u>99.67</u>
	投資有価証券合計	<u>363,119,409</u>	<u>99.67</u>
	現金	<u>885,052</u>	<u>0.24</u>
	その他の資産 / (負債)	<u>317,940</u>	<u>0.09</u>
	純資産合計	<u>364,322,401</u>	<u>100.00</u>

\* Hong Kong Registered Shares.

2014年6月30日現在の  
投資有価証券の内訳純資産に  
占める割合(%)

株式	
金融	22.50
ヘルスケア	18.97
情報技術	18.85
一般消費財サービス	16.12
エネルギー	8.78
資本財・サービス	5.79
電気通信サービス	4.46
素材	3.13
投資会社	0.64
公益事業	0.43
株式合計	<u>99.67</u>
現金およびその他資産 / (負債)	<u>0.33</u>
合計	<u>100.00</u>

2013年12月31日現在の  
投資有価証券の内訳（未監査）純資産に  
占める割合(%)

株式	
金融	26.66
ヘルスケア	18.56
情報技術	17.47
エネルギー	11.60
一般消費財サービス	8.93
資本財・サービス	5.41
素材	3.28
生活必需品	2.97
投資会社	1.92
電気通信サービス	1.26
株式合計	<u>98.06</u>
現金およびその他資産 / (負債)	<u>1.94</u>
合計	<u>100.00</u>

## 先渡為替契約明細表（米ドル）

2014年6月30日現在

決済日	通貨	買建額	通貨	売建額	未実現損益
25-Jul-14	EUR	481,982	HKD	5,086,619	2,539
25-Jul-14	EUR	58,993,731	USD	80,356,506	259,129
25-Jul-14	USD	1,008,934	CAD	1,082,364	(3,869)
25-Jul-14	USD	5,244,007	CHF	4,683,947	(23,653)
25-Jul-14	USD	671,360	EUR	493,245	(2,665)
25-Jul-14	USD	10,561,247	GBP	6,204,031	(16,762)
25-Jul-14	USD	8,337,544	HKD	64,630,560	1,197
25-Jul-14	USD	3,973,769	JPY	404,875,373	(19,496)
合計					<u>196,420</u>

カウンターパーティーによる先物為替予約を通してのサブ・ファンドのエクスポージャーは以下の通りです。

2014年6月30日現在

直近計算期間におけるTER（総費用率）

2014年6月30日現在

0.76%

カウンターパーティー	未実現損益
Citibank	256,713
Crédit Suisse	4,955
Deutsche Bank	(26,318)
State Street Bank	(22,168)
UBS	(16,762)
合計	196,420

（注）TER（総費用率）は、運用にかかる費用の合計をファンドの純資産の日次平均に対する比率で表したものです。

運用にかかる費用の合計には、運用および顧問報酬、保管報酬、税金、その他費用が含まれております。

当座貸越利息と実績報酬は計算対象から除いております。

（注）1万口当たりの費用明細が取得できないため、TER（総費用率）を表示しています。

## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

(平成27年7月1日現在)

種類	金額	単位
資産総額	3,663,488,628	円
負債総額	259,346,540	円
純資産総額( - )	3,404,142,088	円
発行済口数	2,699,830,376	口
1口当たり純資産額( / )	1.2609	円

## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

### 1 名義書換

当ファンドの受益権は、社振法に定める振替投資信託受益権の形態で発行されますので、名義書換手続はありませんが、その譲渡は以下の手続により行われます。

- (1) 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。
- (2) 前記(1)の申請があった場合には、前記(1)の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記(1)の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- (3) 前記(1)の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

### 2 受益者に対する特典

ありません。

### 3 受益証券の譲渡制限の内容

当ファンドの受益権には、譲渡制限はありません。なお、受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

### 4 その他内国投資信託受益証券事務の概要

- (1) 受益権の再分割  
委託会社は、社振法に定めるところにしたがい、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。
- (2) 償還金  
償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払います。
- (3) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて  
振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

## 第三部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

資本金の額（平成27年7月末現在）

資本金の額	2,218百万円
会社が発行する株式の総数	70,000株
発行済株式総数	56,265株

会社の意思決定機構

取締役会は、会社の業務執行上重要な事項を決定し、その決議は、取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって行われます。

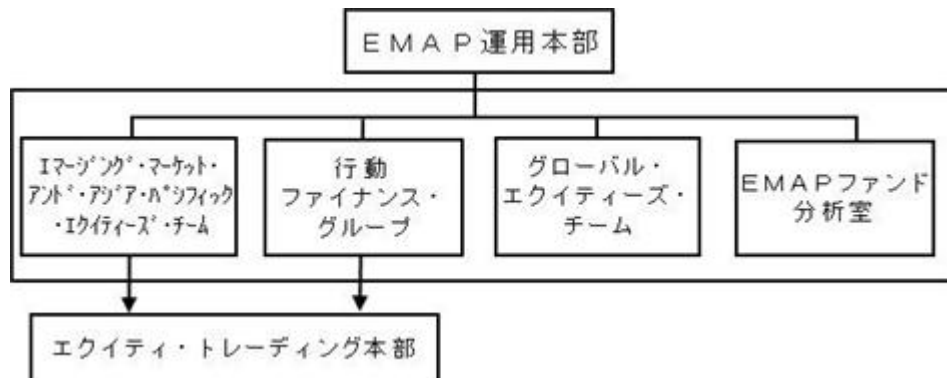
取締役は、株主総会において選任され、任期は選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。増員により、または補欠として選任された取締役の任期は、他の在任取締役の任期の満了する時までとします。

また、取締役会は以下の事項（法令上取締役会の決議事項とされているものを除きます。）を決議または審議することを以下の機関に委任しています。

- （イ）業務執行にかかる重要な事項（リスク管理に関する事項を除きます。）：経営委員会
- （ロ）リスク管理上の重要な事項：リスク・コミッティー

投資運用の意思決定機構

（イ）EMAP運用本部



（a）EMAP運用本部は、EMAP株式運用戦略<sup>\*</sup>、行動ファイナンス株式運用戦略<sup>\*</sup>またはMDPコクサイ株式運用戦略<sup>\*</sup>に基づいた運用を行います。

<sup>\*</sup> 「EMAP株式運用戦略」は、企業取材を基本とする徹底的なボトムアップ・アプローチによる調査・分析を行い、企業の成長力に比べて株価が割安な銘柄に投資することにより、超過収益の獲得を目指す運用を行います。

「行動ファイナンス株式運用戦略」は、「人間の心理」が引き起こす「株の売られ過ぎ」、

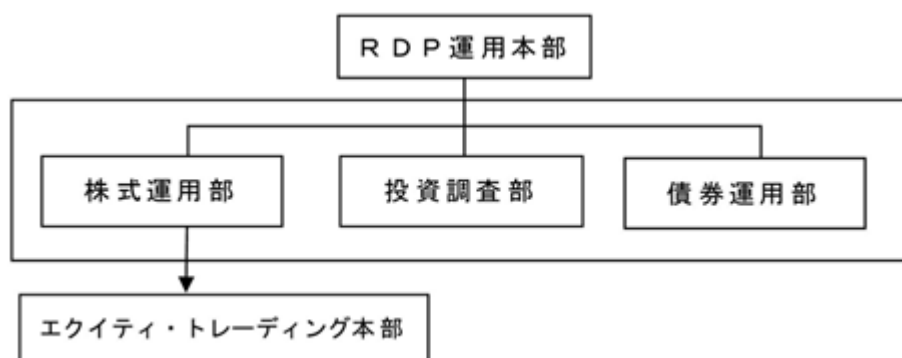
「過小評価」等の非効率性を捉え、超過収益の獲得を目指す運用を行います。

「MDPコクサイ株式運用戦略」は、世界各地（現地）のベスト・アイデアを基に、アナリストによるグローバル（地域横断的）な業種分析を加え、最終的にポートフォリオ・マネジャーの判断で運用を行います。

（b）EMAP運用本部では、運用業務遂行上必要と認められる諸会議を開催します。各会議にて、EMAP株式運用戦略、行動ファイナンス株式運用戦略またはMDPコクサイ株式運用戦略に基づいた国内外の株式、その他資産の運用戦略の方向性を決定します。

- (c) エマージング・マーケット・アンド・アジア・パシフィック・エクイティーズ・チームは、J.P.モルガン・アセット・マネジメントの海外拠点からの情報を参考に、E M A P 株式運用ストラテジーに基づき国内株式およびアジア株式の運用戦略の方向性を決定し、その内容を自らの投資判断に利用します。また、同チームが行う国内株式およびアジア株式の運用や海外関係会社に運用を委託しているE M A P 株式運用ストラテジーによる外国株式の運用等について、関係各部署と連携し、顧客、投資家、販売会社およびコンサルタント会社への商品内容説明、販売支援、新商品の企画立案等に関する事項を行います。
- (d) 行動ファイナンス・グループは、行動ファイナンス株式運用ストラテジーに基づき主に国内外の株式の運用戦略の方向性を決定し、その内容を自らの投資判断に利用します。また、同グループが行う国内外の株式の運用について、関係各部署と連携し、顧客、投資家、販売会社およびコンサルタント会社への商品内容説明、販売支援、新商品の企画立案等に関する事項を行います。
- (e) グローバル・エクイティーズ・チームは、J.P.モルガン・アセット・マネジメントの海外拠点からの情報を参考に、M D P コクサイ株式運用ストラテジーに基づき外国株式の投資判断を行います。また、同チームが行う外国株式の運用について、関係各部署と連携し、顧客、投資家、販売会社およびコンサルタント会社への商品内容説明、販売支援、新商品の企画立案等に関する事項を行います。
- (f) エクイティ・トレーディング本部は、前記(c)・(d)のチームおよびグループによる投資判断を受け、主に国内株式の売買を執行します。
- (g) E M A P ファンド分析室は、運用実績の分析を行い、前記(c)・(d)のチームおよびグループにその結果を提供します。

(ロ) R D P 運用本部



- (a) R D P 運用本部は、投資調査部、株式運用部および債券運用部で構成されます。投資調査部および株式運用部は、R D P 株式運用ストラテジー<sup>\*</sup>に基づいた運用を行います。
- <sup>\*</sup> 「R D P 株式運用ストラテジー」は、個別企業の徹底した調査・分析に配当割引モデルによる客観的評価を加えることにより、超過収益の獲得を目指す運用を行います。
- (b) 投資調査部に所属するアナリストはR D P 株式運用ストラテジーに基づき主に国内株式の分析を行い、その結果に基づき各銘柄に評価を付します。同部に所属するエコノミストは、マクロ経済の観点からアナリストの調査・分析の基となる情報の提供を行います。
- (c) 株式運用部に所属するポートフォリオ・マネジャーは、投資調査部のアナリストとの議論を通じて、前記(b)の評価を検証の上、投資判断を行い、主に国内株式のポートフォリオの構築を行います。また、同部が行う国内株式の運用について、関係各部署と連携し、顧客、投資家、販売会社およびコンサルタント会社への商品内容説明、販売支援、新商品の企画立案等に関する事項を行います。



- (d) 債券運用部では、国内外の債券の運用業務遂行上必要と認められる諸会議を開催し、運用戦略の方向性を決定します。その決定内容を自らの投資判断に利用し、国内外の債券のポートフォリオを決定します。また国内外の債券の売買を執行します。さらに、同部が行う国内外の債券の運用について、関係各部署と連携し、顧客、投資家、販売会社およびコンサルタント会社への商品内容説明、販売支援、新商品の企画立案等に関する事項を行います。
- (e) エクイティ・トレーディング本部は、株式運用部所属のポートフォリオ・マネジャーの投資判断を受け、主に国内株式の売買を執行します。

(ハ) 前記(イ)および(ロ)以外に為替ヘッジを行う場合は、クライアント・ビジネス本部のグローバル運用商品部およびグローバル債券商品部が為替ヘッジのための投資判断を行い、債券運用部が取引を執行します。

(注) 前記(イ)、(ロ)および(ハ)の意思決定機構、組織名称等は、平成27年7月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

投資信託及び投資法人に関する法律に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行うとともに、金融商品取引法に定める金融商品取引業者として当該証券投資信託および投資一任契約に基づき委託された資産の運用（投資運用業）を行っています。また金融商品取引法に定める以下の業務を行っています。

- ・投資助言・代理業
- ・有価証券の募集もしくは売出しの取扱いまたは私募の取扱いに関する第一種金融商品取引業
- ・有価証券の募集もしくは売出しの取扱いまたは私募の取扱い、および証券投資信託の募集または私募に関する第二種金融商品取引業

委託会社が設定・運用している投資信託は、平成27年7月末現在以下のとおりです(親投資信託は本数のみ。)

	本数	純資産額(百万円)
公募追加型株式投資信託	72	719,230
公募単位型株式投資信託	1	2,482
公募追加型債券投資信託	1	325,604
公募単位型債券投資信託	-	-
私募投資信託	65	1,601,239
総合計	139	2,648,555
親投資信託	60	-

(注) 百万円未満は四捨五入

### 3【委託会社等の経理状況】

1．委託会社であるＪＰモルガン・アセット・マネジメント株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号。以下「金融商品取引業等に関する内閣府令」という。）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2．当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第25期事業年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）の財務諸表について、あらた監査法人により監査を受けております。

## ( 1 ) 【貸借対照表】

		第24期 (平成26年3月31日)			第25期 (平成27年3月31日)		
資産の部							
区分	注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
<b>流動資産</b>							
現金及び預金			4,762,304			5,106,838	
有価証券			6,612,688			5,814,310	
前払費用			17,287			23,442	
未収入金			105,641			5,649	
未収委託者報酬			3,816,329			2,937,836	
未収収益			2,374,601			1,674,281	
関係会社短期貸付金			995,000			4,198,000	
繰延税金資産			301,507			287,554	
その他			5,554			4,598	
流動資産計			18,990,915	93.5		20,052,511	97.5
<b>固定資産</b>							
投資その他の資産			1,327,789			508,181	
関係会社株式		60,000			60,000		
投資有価証券		844,160			30		
敷金保証金		41,662			27,826		
長期預け金		207,602			254,907		
前払年金費用		-			15,157		
繰延税金資産		136,043			111,940		
その他		38,319			38,319		
固定資産計			1,327,789	6.5		508,181	2.5
資産合計			20,318,704	100.0		20,560,692	100.0

		第24期 (平成26年3月31日)			第25期 (平成27年3月31日)		
負債の部							
区分	注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
流動負債							
預り金			94,926			103,500	
未払金			3,120,393			2,497,510	
未払手数料		1,836,553			1,393,063		
その他未払金		1,283,840			1,104,446		
未払費用			810,217			607,479	
未払法人税等			1,624,850			523,529	
賞与引当金			387,239			454,023	
流動負債計			6,037,627	29.7		4,186,042	20.3
固定負債							
長期未払金			197,717			241,635	
賞与引当金			416,452			551,281	
役員賞与引当金			115,441			166,514	
退職給付引当金			747			-	
固定負債計			730,358	3.6		959,431	4.7
負債合計			6,767,985	33.3		5,145,474	25.0

		第24期 (平成26年3月31日)			第25期 (平成27年3月31日)		
純資産の部							
区分	注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
株主資本							
資本金			2,218,000	10.9		2,218,000	10.8
資本剰余金			1,000,000	4.9		1,000,000	4.9
資本準備金		1,000,000			1,000,000		
利益剰余金			10,304,297	50.8		12,197,218	59.3
利益準備金		33,676			33,676		
その他利益剰余金							
繰越利益剰余金		10,270,621			12,163,541		
株主資本計			13,522,297	66.6		15,415,218	75.0
評価・換算差額等							
その他有価証券評価差額金			28,421	0.1		0	0.0
評価・換算差額等計			28,421	0.1		0	0.0
純資産合計			13,550,719	66.7		15,415,218	75.0
負債・純資産合計			20,318,704	100.0		20,560,692	100.0

## ( 2 ) 【損益計算書】

区分	注記 番号	第24期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)			第25期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)		
		内訳	金額	百分比	内訳	金額	百分比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
営業収益							
委託者報酬			16,395,693			14,958,037	
運用受託報酬			7,689,534			7,150,457	
業務受託報酬			1,749,164			1,444,725	
その他営業収益			145,316			217,968	
営業収益計			25,979,707	100.0		23,771,189	100.0
営業費用							
支払手数料			7,582,948			6,858,986	
広告宣伝費			269,630			175,701	
調査費			3,024,605			2,534,082	
委託調査費		2,706,010			2,190,630		
調査費		311,043			336,635		
図書費		7,551			6,816		
委託計算費			330,320			325,399	
営業雑経費			369,049			278,190	
通信費		37,502			34,824		
印刷費		300,594			210,817		
協会費		25,734			28,224		
諸会費		5,218			4,324		
営業費用計			11,576,555	44.6		10,172,360	42.8

区分	注記 番号	第24期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)			第25期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)		
		内訳	金額	百分比	内訳	金額	百分比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
一般管理費							
給料			5,802,911		5,415,944		
役員報酬		166,939			156,686		
給料・手当		3,536,324			3,530,140		
賞与		1,006,212			669,872		
賞与引当金繰入額		699,012			820,377		
役員賞与		128,462			119,510		
役員賞与引当金繰入額		85,067			116,507		
その他の報酬		180,892			2,850		
福利厚生費			417,435		400,758		
交際費			63,496		44,897		
寄付金			13,104		4,325		
旅費交通費			234,821		196,309		
租税公課			86,412		86,746		
不動産賃借料			1,126,340		1,118,499		
退職給付費用			302,703		299,251		
退職金			16,818		178,441		
消耗器具備品費			111,396		104,556		
事務委託費			280,201		344,282		
関係会社等配賦経費			1,935,627		2,290,299		
諸経費			147,574		133,331		
一般管理費計			10,538,845	40.6	10,617,643	44.7	
営業利益			3,864,307	14.8	2,981,184	12.5	

区分	注記 番号	第24期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)			第25期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)		
		内訳	金額	百分比	内訳	金額	百分比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
営業外収益							
受取配当金	1	82,702			112,067		
投資有価証券売却益		-			91,709		
受取利息	1	5,865			12,700		
分配金・償還金時効		890			-		
その他営業外収益		15,923			39,358		
営業外収益計			105,381	0.4		255,835	1.1
営業外費用							
為替差損		18,742			22,171		
事務処理損失		153,469			-		
その他営業外費用		12,122			1,239		
営業外費用計			184,334	0.7		23,411	0.1
経常利益			3,785,354	14.5		3,213,608	13.5
税引前当期純利益			3,785,354	14.5		3,213,608	13.5
法人税、住民税及び事業税			1,607,119	6.1		1,266,892	5.3
法人税等調整額			104,735	0.4		53,795	0.2
当期純利益			2,282,970	8.8		1,892,920	8.0



## ( 3 ) 【株主資本等変動計算書】

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	2,218,000	1,000,000	1,000,000	33,676	7,987,651	8,021,327	11,239,327
当期変動額							
当期純利益	-	-	-	-	2,282,970	2,282,970	2,282,970
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-	2,282,970	2,282,970	2,282,970
当期末残高	2,218,000	1,000,000	1,000,000	33,676	10,270,621	10,304,297	13,522,297

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	-	-	11,239,327
当期変動額			
当期純利益	-	-	2,282,970
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	28,421	28,421	28,421
当期変動額合計	28,421	28,421	2,311,391
当期末残高	28,421	28,421	13,550,719

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	2,218,000	1,000,000	1,000,000	33,676	10,270,621	10,304,297	13,522,297
当期変動額							
当期純利益	-	-	-	-	1,892,920	1,892,920	1,892,920
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-	1,892,920	1,892,920	1,892,920
当期末残高	2,218,000	1,000,000	1,000,000	33,676	12,163,541	12,197,218	15,415,218

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	28,421	28,421	13,550,719
当期変動額			
当期純利益	-	-	1,892,920
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	28,421	28,421	28,421
当期変動額合計	28,421	28,421	1,864,499
当期末残高	0	0	15,415,218

## 重要な会計方針

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 関係会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) その他有価証券

##### 時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

##### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2. 引当金の計上基準

#### (1) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給、及び親会社の運営する株式報酬制度に係る将来の費用負担に備えるため、当事業年度に帰属する額を計上しております。

#### (2) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給、及び親会社の運営する株式報酬制度に係る将来の費用負担に備えるため、当事業年度に帰属する額を計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員に対する退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務と年金資産の見込額に基づき退職給付引当金を計上しております。ただし、当事業年度末においては、年金資産の額が、退職給付債務に未認識数理計算上の差異等を加減した額を超過するため、資産の部に前払年金費用を計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により、発生した事業年度から費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分額を、それぞれ発生した翌事業年度から費用処理することとしております。

### 3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## 注記事項

## （貸借対照表関係）

第24期 （平成26年3月31日）	第25期 （平成27年3月31日）
関係会社項目 関係会社に対する資産および負債には区分 掲記されたもの以外に注記すべき事項はあり ません。	関係会社項目  同左

## （損益計算書関係）

第24期 （自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）	第25期 （自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）
1 関係会社との取引に係るものが次のとおり 含まれております。 関係会社からの受取利息 5,865千円 関係会社からの受取配当金 80,000千円	1 関係会社との取引に係るものが次のとおり 含まれております。 関係会社からの受取利息 12,699千円 関係会社からの受取配当金 110,000千円

## （株主資本等変動計算書関係）

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

## 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	56,265	-	-	56,265
合計	56,265	-	-	56,265

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

## 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	56,265	-	-	56,265
合計	56,265	-	-	56,265

## （リース取引関係）

第24期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	第25期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料は以下のとおりであります。	オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料は以下のとおりであります。
1年以内	1年以内
542,064千円	513,906千円
1年超	1年超
581,751千円	61,652千円
合計	合計
1,123,816千円	575,559千円

## （金融商品関係）

## (1) 金融商品の状況に関する事項

## 金融商品に対する取組方針

一時的な余資は主に流動性の高い公社債投資信託で運用しております。

自社が設定する投資信託やグループ会社が運用する投資信託について、その設定時に運用上十分な信託財産があることが見込めない場合に、「シードキャピタル」として当該投資信託を自己資金により取得することがあります。

当社は、営業活動援助のため、子会社であるJPMAM Japan Cayman Fund Limitedへの短期貸付を行っております。

## 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権のうち、自社が設定・運用する投資信託から受領する未収委託者報酬、及び未収収益のうち国内年金基金等から受領する債権については信託銀行により分別管理されている信託財産から回収され、一般債権とは異なり、信用リスクは極めて低いと認識しております。海外グループ会社に対する未収収益は未払費用と部分的に相殺され、信用リスクが軽減されております。また、外貨建て債権の未収収益については為替の変動リスクに晒されておりますが、外貨建て債務と部分的に相殺され、為替変動リスクが軽減されております。

営業債務である未払金は基本的に3ヶ月以内の支払い期日であり、未払手数料、及び未払費用についてはそのほとんどが6ヶ月以内の支払い期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、上述の通り外貨建て債権と部分的に相殺され、リスクが軽減されております。

有価証券は、預金と同様の性質を有する流動性の高い公社債投資信託であり、市場リスクは極めて低いと認識しております。

関係会社に対し短期貸付を行っており、関係会社短期貸付金は貸出先の信用リスクに晒されております。関係会社短期貸付金は、3ヶ月の期日であり、金利の変動リスクは僅少です。

投資有価証券は、上述のシードキャピタルであり、市場価格の変動リスクに晒されております。

## 金融商品に係るリスク管理体制

## (i) 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権のうち、海外グループ会社に対する未収収益は担当部署が各関係会社ごとに期日及び残高を定期的に管理し、回収懸念の早期把握を図っております。

関係会社短期貸付金は、子会社であるJPMAM Japan Cayman Fund Limitedの営業活動から得られるキャッシュ・フローをモニタリングしており、貸倒や回収遅延の懸念はほぼないと認識しております。

## ( ) 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

外貨建ての営業債権債務のうち、大半を占める米国ドル建ての債権債務に対しての為替変動リスクについては担当部署が月次でモニタリングしており、債権もしくは債務の超過に対して米国ドル建て預金と円建て預金との間で資金移動をして為替変動リスクの軽減に努めております。

## ( ) 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

各部署からの報告に基づき担当部署が適宜資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、金額的重要性が低いと判断するものは次表には含めておりません。また、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含めておりません（（注）2．参照）。

第24期（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	4,762,304	4,762,304	-
(2) 有価証券	6,612,688	6,612,688	-
(3) 未収委託者報酬	3,816,329	3,816,329	-
(4) 未収収益	2,374,601	2,374,601	-
(5) 関係会社短期貸付金	995,000	995,000	-
(6) 投資有価証券	844,160	844,160	-
(7) 長期預け金	207,602	207,268	333
資産計	19,612,687	19,612,353	333
(1) 未払手数料	1,836,553	1,836,553	-
(2) その他未払金	1,283,840	1,283,840	-
(3) 未払費用	810,217	810,217	-
(4) 長期未払金	197,717	197,399	318
負債計	4,128,327	4,128,009	318

## (注) 1．金融商品の時価算定方法

資産

## (1) 現金及び預金、(2) 有価証券、(3) 未収委託者報酬、(4) 未収収益及び(5) 関係会社短期貸付金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (6) 投資有価証券

これらは投資信託であり、時価は市場価格に準ずるものとして合理的に算定された価額によっております。

## (7) 長期預け金

長期預け金の時価については、当該預け金の受取までの期間を基に、日本国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

負債

## (1) 未払手数料、(2) その他未払金、及び(3) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (4) 長期未払金

長期未払金の時価については、当該未払金の支払までの期間を基に、日本国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

## (注) 2 . 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
関係会社株式	60,000

関係会社株式については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、上表に含めておりません。

第25期（平成27年3月31日）

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	5,106,838	5,106,838	-
(2) 有価証券	5,814,310	5,814,310	-
(3) 未収委託者報酬	2,937,836	2,937,836	-
(4) 未収収益	1,674,281	1,674,281	-
(5) 関係会社短期貸付金	4,198,000	4,198,000	-
(6) 投資有価証券	30	30	-
(7) 長期預け金	254,907	254,839	68
資産計	19,986,203	19,986,135	68
(1) 未払手数料	1,393,063	1,393,063	-
(2) その他未払金	1,104,446	1,104,446	-
(3) 未払費用	607,479	607,479	-
(4) 長期未払金	241,635	241,571	64
負債計	3,346,624	3,346,560	64

## (注) 1 . 金融商品の時価算定方法

資産

(1) 現金及び預金、(2) 有価証券、(3) 未収委託者報酬、(4) 未収収益及び(5) 関係会社短期貸付金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(6) 投資有価証券

これらは投資信託であり、時価は市場価格に準ずるものとして合理的に算定された価額によっております。

(7) 長期預け金

長期預け金の時価については、当該預け金の受取までの期間を基に、日本国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 未払手数料、(2) その他未払金、及び(3) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期未払金

長期未払金の時価については、当該未払金の支払までの期間を基に、日本国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

## (注) 2 . 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
関係会社株式	60,000

関係会社株式については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、上表に含めておりません。

## 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。



## (3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第24期(平成26年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	4,762,304	-	-	-
未収委託者報酬	3,816,329	-	-	-
未収収益	2,374,601	-	-	-
関係会社短期貸付金	995,000	-	-	-
合計	11,948,235	-	-	-

第25期(平成27年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	5,106,838	-	-	-
未収委託者報酬	2,937,836	-	-	-
未収収益	1,674,281	-	-	-
関係会社短期貸付金	4,198,000	-	-	-
合計	13,916,956	-	-	-

## （有価証券関係）

## 1．関係会社株式

関係会社株式（第24期の貸借対照表計上額は60,000千円、第25期の貸借対照表計上額は60,000千円）については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであることから、記載しておりません。

## 2．その他有価証券

第24期（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	その他 投資信託	844,160	800,000	44,160
合計		844,160	800,000	44,160

（注）有価証券（貸借対照表計上額 6,612,688千円）については預金と同様に扱っており、時価評価をしていないため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

第25期（平成27年3月31日）

（単位：千円）

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	その他 投資信託	20	20	0
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	その他 投資信託	9	10	0
合計		30	30	0

（注）有価証券（貸借対照表計上額 5,814,310千円）については預金と同様に扱っており、時価評価をしていないため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 3．当事業年度中に売却したその他有価証券

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

該当事項はありません。

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他 投資信託	913,709	91,709	-

## （退職給付関係）

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

## 1．採用している退職給付制度の概要

当社は確定拠出型年金制度、及びキャッシュバランス型年金制度を採用しております。

## 2．キャッシュバランス型年金制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	（千円）
退職給付債務の期首残高	1,036,743
勤務費用	201,567
利息費用	10,367
数理計算上の差異の発生額	18,396
退職給付の支払額	74,432
退職給付債務の期末残高	1,192,641

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	（千円）
年金資産の期首残高	1,019,609
期待運用収益	11,216
数理計算上の差異の発生額	116,026
事業主からの拠出額	209,216
退職給付の支払額	74,432
年金資産の期末残高	1,281,635

## (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	（千円）
積立型制度の退職給付債務	1,192,641
年金資産	1,281,635
	88,994
未認識数理計算上の差異	80,496
未認識過去勤務費用	9,245
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	747
退職給付引当金	747
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	747

## (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	（千円）
勤務費用	201,567
利息費用	10,367
期待運用収益	11,216
数理計算上の差異の費用処理額	5,985
過去勤務債務の費用処理額	5,404
その他（注1）	26,154
キャッシュバランス型年金制度に係る退職給付費用（注2）	227,453

（注1）その他の金額は、主に当社への出向者分の退職給付費用であります。

（注2）当社からの出向者分の退職給付費用は、上記金額に含まれておりません。

## (5) 年金資産に関する事項

## 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	60.4%
株式	21.8%
現金及び預金	17.8%
合計	100.0%

## 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 1.00%

長期期待運用収益率 1.10%

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は75,250千円であります。

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

1．採用している退職給付制度の概要

当社は確定拠出型年金制度、及びキャッシュバランス型年金制度を採用しております。

2．キャッシュバランス型年金制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)
退職給付債務の期首残高	1,192,641
勤務費用	203,483
利息費用	11,926
数理計算上の差異の発生額	22,099
退職給付の支払額	127,024
退職給付債務の期末残高	1,303,125

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)
年金資産の期首残高	1,281,635
期待運用収益	14,098
数理計算上の差異の発生額	115,243
事業主からの拠出額	205,589
退職給付の支払額	127,024
年金資産の期末残高	1,489,541

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	(千円)
積立型制度の退職給付債務	1,303,125
年金資産	1,489,541
	186,416
未認識数理計算上の差異	167,491
未認識過去勤務費用	3,841
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	15,084
前払年金費用	15,084
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	15,084

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)
勤務費用	203,483
利息費用	11,926
期待運用収益	14,098
数理計算上の差異の費用処理額	6,219
過去勤務債務の費用処理額	5,404
その他（注1）	21,087
キャッシュバランス型年金制度に係る退職給付費用（注2）	210,775

（注1）その他の金額は、主に当社への出向者分の退職給付費用であります。

（注2）当社からの出向者分の退職給付費用は、上記金額に含まれておりません。

## (5) 年金資産に関する事項

## 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	47.6%
株式	24.9%
現金及び預金	27.5%
合計	100.0%

## 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 1.00%

長期期待運用収益率 1.10%

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は88,476千円であります。

## （税効果会計関係）

## 1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第24期 (平成26年3月31日)	第25期 (平成27年3月31日)
(流動)	(千円)	(千円)
繰延税金資産		
未払費用	41,107	13,314
未払事業税	117,202	41,425
賞与引当金	138,012	225,942
その他	5,185	6,872
繰延税金資産合計	301,507	287,554
繰延税金資産の純額	301,507	287,554
(固定)	(千円)	(千円)
繰延税金資産		
賞与引当金	148,423	121,126
長期未払費用	81,090	78,115
その他	12,537	6,233
繰延税金資産小計	242,052	205,475
評価性引当額	90,269	93,534
繰延税金資産合計	151,783	111,940
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	15,738	-
繰延税金資産又は繰延税金負債（ ）の純額	136,043	111,940

2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	第24期 (平成26年3月31日)	第25期 (平成27年3月31日)
法定実効税率	38.01%	35.64%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.59%	5.17%
評価性引当額	3.84%	0.10%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.62%	1.04%
その他	0.31%	0.86%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>39.69%</u>	<u>41.10%</u>

3．法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第9号）が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.64%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については33.1%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、32.34%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額は33,488千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。



（セグメント情報等）

## セグメント情報

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 関連情報

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

### 1. サービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業務	投資一任及び 投資助言業務	業務受託報酬	その他	合計
外部顧客への売上高	16,395,693	7,689,534	1,749,164	145,316	25,979,707

### 2. 地域ごとの情報

#### 営業収益

（単位：千円）

日本	その他	合計
21,952,998	4,026,709	25,979,707

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

### 1. サービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業務	投資一任及び 投資助言業務	業務受託報酬	その他	合計
外部顧客への売上高	14,958,037	7,150,457	1,444,725	217,968	23,771,189

### 2. 地域ごとの情報

#### 営業収益

（単位：千円）

日本	その他	合計
19,644,646	4,126,543	23,771,189

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## （関連当事者情報）

## 1．関連当事者との取引

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

## 子会社

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
子会社	JPMAM Japan Cayman Fund Limited	ケイマン諸島 グランドケイマン	3,500千円	外国投資信託の管理会社としての業務	所有 直接 100%	資金の貸借等及び役員の兼任	資金の貸付（注）	5,577,000	関係会社 短期貸付金	995,000
							資金の回収	5,812,000		
							受取利息	5,865	未収収益	2,290
							配当の受取	80,000	-	-

（注）取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の貸付については、貸付利率は市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、返済条件は期間3ヶ月であります。なお、担保は受け入れておりません。

## 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
最終的な親会社がある会社	JPMorgan Asset Management (UK) Limited	英国 ロンドン	24百万 ポンド	投資運用業	なし	投資の助言または投資一任（当社からの運用再委託）	調査費	1,612,349	未払費用	368,943
最終的な親会社がある会社	ジェー・ピー・モルガン・サービス・ジャパン・リミテッド 東京支店	東京都 千代田区	1千米ドル	不動産の売買・賃貸借および総務の代行業等	なし	総務の代行	事務所退去費用の預け入れ	32,685	長期預け金	207,602

（注1）ジェー・ピー・モルガン・サービス・ジャパン・リミテッド東京支店に関するものを除き、取引金額および期末残高には、消費税等は含まれておりません。

（注2）取引条件及び取引条件の決定方針等

調査費に関しては、運用の再委託の一般的な手数料率を勘案し、協議の上、再委託契約を結んで行っております。

長期預け金に関しては、当初預け入れ時より無利息としております。

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

## 子会社

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
子会社	JPMAM Japan Cayman Fund Limited	ケイマン諸島 グランドケイマン	3,500千円	外国投資信託の管理会社としての業務	所有 直接 100%	資金の貸借等及び役員の兼任	資金の貸付（注）	15,535,000	関係会社 短期貸付金	4,198,000
							資金の回収	12,332,000		
							受取利息	12,699	未収収益	1,611
							配当の受取	110,000	-	-

（注）取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の貸付については、貸付利率は市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、返済条件は期間3ヶ月であります。なお、担保は受け入れておりません。

## 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
最終的な親会社である会社	JPMorgan Asset Management (UK) Limited	英国 ロンドン	24百万 ポンド	投資 運用業	なし	投資の助言または投資一任（当社からの運用再委託）	調査費	1,419,787	未払費用	334,497
最終的な親会社である会社	ジェー・ピー・モルガン・サービス・ジャパン・リミテッド 東京支店	東京都 千代田区	1千 米ドル	不動産の 売買・賃 貸借およ び総務の 代行業等	なし	総務の代行	事務所退 去費用の 預け入れ	47,304	長期預け金	254,907

（注1）ジェー・ピー・モルガン・サービス・ジャパン・リミテッド東京支店に関するものを除き、取引金額および期末残高には、消費税等は含まれておりません。

（注2）取引条件及び取引条件の決定方針等

調査費に関しては、運用の再委託の一般的な手数料率を勘案し、協議の上、再委託契約を結んで行っております。

長期預け金に関しては、当初預け入れ時より無利息としております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## 親会社情報

直接親会社 J P モルガン・アセット・マネジメント（アジア）インク（非上場）

最終的な親会社 J P モルガン・チェース・アンド・カンパニー

## （ 1 株当たり情報）

	第24期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	第25期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
1株当たり純資産額	240,837.45円	273,975.27円
1株当たり当期純利益	40,575.31円	33,642.95円

なお、当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

## 1株当たりの当期純利益の算定上の基礎

	第24期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	第25期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
損益計算書上の当期純利益	2,282,970千円	1,892,920千円
普通株主に帰属しない金額	-	-
普通株式に係る当期純利益	2,282,970千円	1,892,920千円
普通株式の期中平均株式数	56,265株	56,265株

#### 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、金融商品取引法の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為を行うことが禁止されています。

- ( 1 ) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- ( 2 ) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- ( 3 ) 通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下（ 4 ）（ 5 ）において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下（ 4 ）（ 5 ）において同じ。）と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- ( 4 ) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ( 5 ) 前記（ 3 ）（ 4 ）に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

#### 5【その他】

##### ( 1 ) 定款の変更

定款の変更に関しては、株主総会の特別決議が必要です。

##### ( 2 ) 訴訟事件その他の重要事項

本書提出日現在、委託会社および当ファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

## 第 2 【その他の関係法人の概況】

### 1 【名称、資本金の額及び事業の内容】

#### ( 1 ) 受託会社

名 称 三菱UFJ信託銀行株式会社  
資本金の額 324,279百万円（平成27年3月末現在）  
事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

#### < 再信託受託会社の概要 >

名 称 : 日本マスタートラスト信託銀行株式会社  
事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的 : 原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（日本マスタートラスト信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

## ( 2 ) 販売会社

	名 称	資本金の額 (平成27年3月末現在)	事業の内容
1	カブドットコム証券株式会社	7,196百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
2	株式会社SBI証券	47,937百万円	同 上
3	中銀証券株式会社	2,000百万円	同 上
4	楽天証券株式会社	7,495百万円	同 上
5	三菱UFJモルガン・スタンレーPB証券株式会社	8,000百万円	同 上
6	株式会社りそな銀行	279,928百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
7	株式会社大分銀行	19,598百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
8	株式会社新生銀行	512,204百万円	同 上
9	株式会社池田泉州銀行	50,710百万円	同 上
10	株式会社千葉銀行	145,069百万円	同 上
11	株式会社中京銀行	31,844百万円	同 上
12	株式会社埼玉りそな銀行	70,000百万円	同 上
13	株式会社近畿大阪銀行	38,971百万円	同 上

## 2 【関係業務の概要】

## ( 1 ) 受託会社

当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理業務および信託財産の計算等を行います。

## ( 2 ) 販売会社

当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、目論見書の交付、運用報告書に記載すべき事項のうち重要な事項のみを記載した交付運用報告書の交付代行、収益分配金の再投資に関する事務、収益分配金・一部解約金・償還金の支払い等を行います。

### 3【資本関係】

受託会社および販売会社との間に直接的な資本関係はありません。

### 第3【その他】

- (1) 交付目論見書および請求目論見書は、以下の記載をすることがあります。なお、目論見書の別称として「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」という名称を使用します。

交付目論見書および請求目論見書の表紙または裏表紙に図案、委託会社のロゴおよび管理番号等を記載することがあります。

交付目論見書および請求目論見書の表紙に、使用開始年月を記載することがあります。

交付目論見書および請求目論見書の表紙に、使用開始年月日を記載します。

- (2) 交付目論見書の表紙、表紙裏または手続・手数料等お申込みメモに、以下の項目について記載します。

委託会社の照会先（電話番号および受付時間、ホームページアドレス）。

当ファンドの課税上の取扱い。

当ファンドの販売会社および基準価額等の詳細な情報は、委託会社のホームページで閲覧できる旨。

金融商品取引法第15条第3項に基づき、投資者の請求により交付される請求目論見書は、委託会社のホームページに掲載されており、当ファンドの投資信託約款は請求目論見書に添付されている旨。

交付目論見書は金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書である旨。

当ファンドの信託財産は、信託法に基づき受託会社において分別管理されている旨。

「ご購入に際しては、交付目論見書の内容を十分にお読みください。」という旨。

- (3) 請求目論見書の表紙または表紙の次に、以下の項目について記載します。

請求目論見書は金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書であり、有価証券届出書 第一部「証券情報」、第二部「ファンド情報」および第三部「委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況」の内容を記載した、金融商品取引法第15条第3項に基づき、投資者の請求により交付される目論見書（請求目論見書）である旨。

当ファンドの課税上の取扱い。

- (4) 請求目論見書は、以下の項目について記載します。

投資信託約款の全文を請求目論見書に記載します。なお、請求目論見書の記載項目と重複する項目については、投資信託約款を参照すべき旨を記載することで、届出書の内容の記載に代えることがあります。

請求目論見書に記載された用語の一部を解説し、「基本用語の解説」として記載します。

- (5) 交付目論見書に記載する運用実績は、データを適時更新することがあります。



## 独立監査人の監査報告書

平成27年6月19日

J P モルガン・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

### あらた監査法人

指定社員 公認会計士 荒川 進  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているJ P モルガン・アセット・マネジメント株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、J P モルガン・アセット・マネジメント株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成27年8月5日

J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

### P w C あらた監査法人

指 定 社 員      公 認 会 計 士      荒 川      進  
業 務 執 行 社 員指 定 社 員      公 認 会 計 士      山 口      健 志  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているJPMグローバルマイスターの平成26年6月30日から平成27年6月26日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、JPMグローバルマイスターの平成27年6月26日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

JPMモルガン・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。